

佐賀県立博物館

年報

昭和46年度

No. 2



佐賀県立博物館 全景

は　じ　め　に

昭和46年度における当博物館の事業概要をとりまとめました。この年度は、新館発足第2年度になりますので、昨年度の経験をもとにして、資料の整備、常設展の充実および特別企画展の開催等に重点をおいて努力したのですが、幸いに関係各方面の絶大なご支援とご協力を受け、ある面は予想以上に、ある面は期待していたところにはば近い実績を挙げることができましたことを感謝しています。

また、この年度には、伊万里市白蛇山岩陰遺跡の学術調査にとりかかりましたことや、一般成人を対象とした「博物館研究講座」を5回、児童・生徒を対象とした「博物館教室」を9回開催し、さらに、移動博物館（巡回展覧会）を関係市・町のご協力を得て3ヵ所で開催しましたことは、当館の新規事業として一般に歓迎されたことと喜んでいます。

特に、奈良国立文化財研究所のご支援により、県内各地の遺跡から出土した鉄器・木器の科学的保存処置を講ずるため、減圧含浸装置等を当館の研究室に設備し、鉄器・木器の保存加工に関する研修会を10日間にわたって実施しましたことは特筆してよいと思っています。

かく申しますと、よいことづくしのようですが、決してそうではありません。46年度の事業を細かく検討すれば、いま一層の工夫と努力が必要であったと反省しています。

特に、自然史・考古・歴史・美術工芸および民俗の各部門にわたる博物館資料の調査研究と収集、整理の促進や、当館が主催または共催する各種展覧会の展示構想や具体的な内容の絶えざる検討と改善、および観覧者、利用者の層のひろがりと博物館事業の一般への広報その他の普及活動等については、今後さらに積極的に取り組まねばならないと深く反省している次第です。

何卒あたたかいご支援とご指導を賜わりますよう切にお願いしてやみません。

昭和47年6月25日

館　長　古　賀　秀　男

目 次

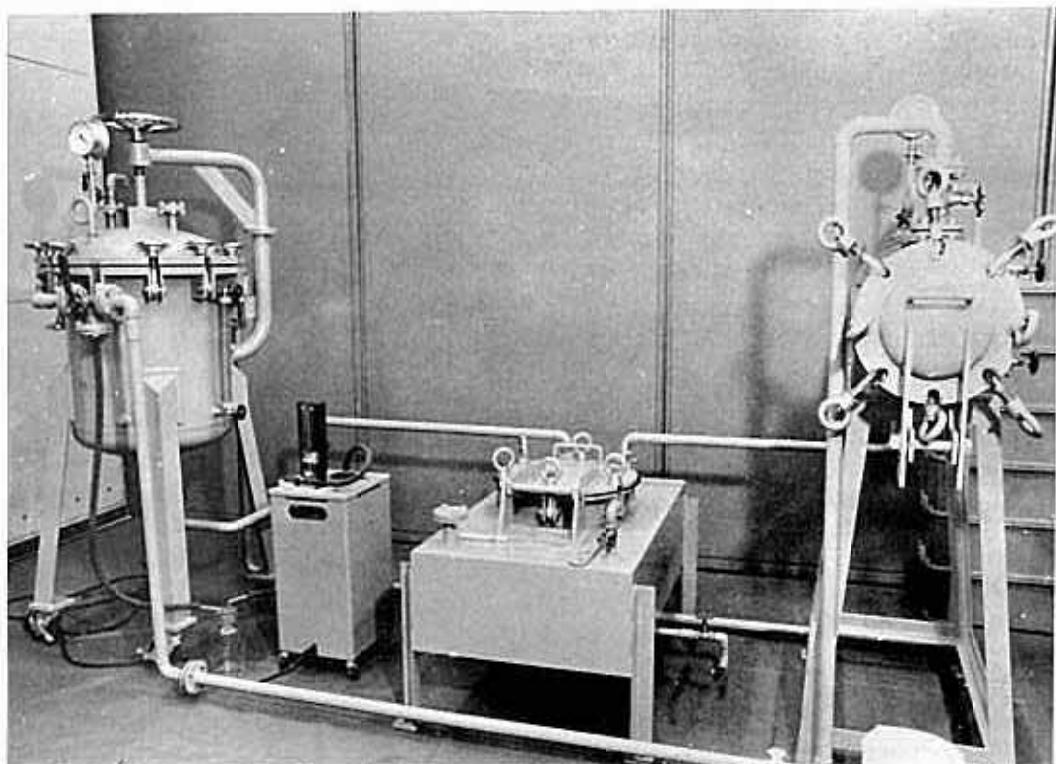
博物館管理の概況	2
1. 本館の沿革	2
2. 規模及び施設	4
3. 機構及び職員の構成	6
(1) 機構	6
(2) 職員構成	6
4. 博物館協議会	7
(1) 委員の名簿	7
(2) 博物館協議会開催状況	7
5. 昭和46年度歳出予算一覧	8
博物館事業の概況	9
1. 展覧会	9
(1) 企画展	9
(2) 常設展	25
(3) 観覧者数	28
2. 普及活動	29
(1) 講演会	29
(2) 資料の刊行	29
(3) 移動博物館	30
(4) 博物館研究講座	30
(5) 博物館教室	30
3. 特別発掘調査	31
4. 研修会	31
博物館資料の概況	34
1. 昭和46年度購入資料	36
2. 昭和46年度寄贈資料	41
3. 昭和46年度寄託資料	43
観覧者の声	51
博物館日誌	54
昭和47年度事業計画	57

博物館管理の概況

I. 沿革

- 昭和23年4月1日 佐賀県中央公民館設置条例に基づき、中央公民館設置。
- 昭和26年4月1日 中央公民館設置条例が廃止され、佐賀県文化館設置条例に基づく県文化館が設置される。
- 昭和27年4月17日 博物館法付則によって、文部大臣から「博物館相当施設」に指定される。
- 昭和30年4月1日 鍋島報效会所有の旧徵古館の建物を借り受け、移転する。
- 昭和30年12月28日 法改正に伴い「文部大臣の指定する博物館に相当する施設」として再び指定される。
- 昭和35年4月1日 佐賀県文化館設置条例を、博物館登録のため改正。博物館法第10条に基づき、佐賀県文化館を博物館として登録する。
- 昭和35年6月1日 博物館法に基づき、佐賀県文化館協議会委員を発令。
県立博物館を、明治百年記念事業として建設することになり、佐賀大学教育学部跡を敷地に選定、昭和42年度に設計を委託し、建設計画に着手し、昭和43年度から45年度にわたる継続事業として建設することになった。
- 昭和43年12月26日 建設工事着工。
- 昭和44年1月21日 佐賀県博物館建設整備委員会を設置。
- 昭和44年1月23日 佐賀県立博物館起工式。
- 昭和45年4月1日 佐賀県文化館設置条例廃止。
佐賀県立博物館設置条例公布。
佐賀県教育庁組織規則改正、佐賀県教育庁博物館開設準備事務局を設置、事務局を旧文化館があった鍋島報效会所有の建物内におく。
- 昭和45年6月29日 博物館開設準備事務局、新館へ移る。
- 昭和45年7月1日 佐賀県立博物館竣工。
- 昭和45年7月1日 佐賀県立博物館設置条例施行。
教育庁組織規則改正、博物館開設準備事務局廃止。
博物館登録。
- 昭和45年7月1日 佐賀県立博物館協議会条例を施行。
- 昭和45年7月16日 佐賀県立博物館協議会委員を任命。
- 昭和45年10月14日 佐賀県立博物館開館記念式。
- 昭和45年10月15日～11月3日 開館記念「桃山・江戸美術名作展」開催。
- 昭和46年2月20日～3月25日 開館記念「化石展」開催。

- 昭和46年6月19日 博物館研究講座開設。
年間 5回実施。
- 昭和46年7月25日 伊万里市東山代町豊野白蛇山岩陰遺跡第一次学術調査実施。
〔自昭和46年7月25日
至昭和46年8月3日〕
- 昭和46年10月9日 移動博物館開設。
県内3市町で実施。
- 昭和47年1月16日 博物館教室開設。
年間 9回実施。
- 昭和47年3月4日 鉄器、木器減圧含浸装置を研究室に設備。



鉄器の減圧含浸装置

2. 規模および施設

規 模

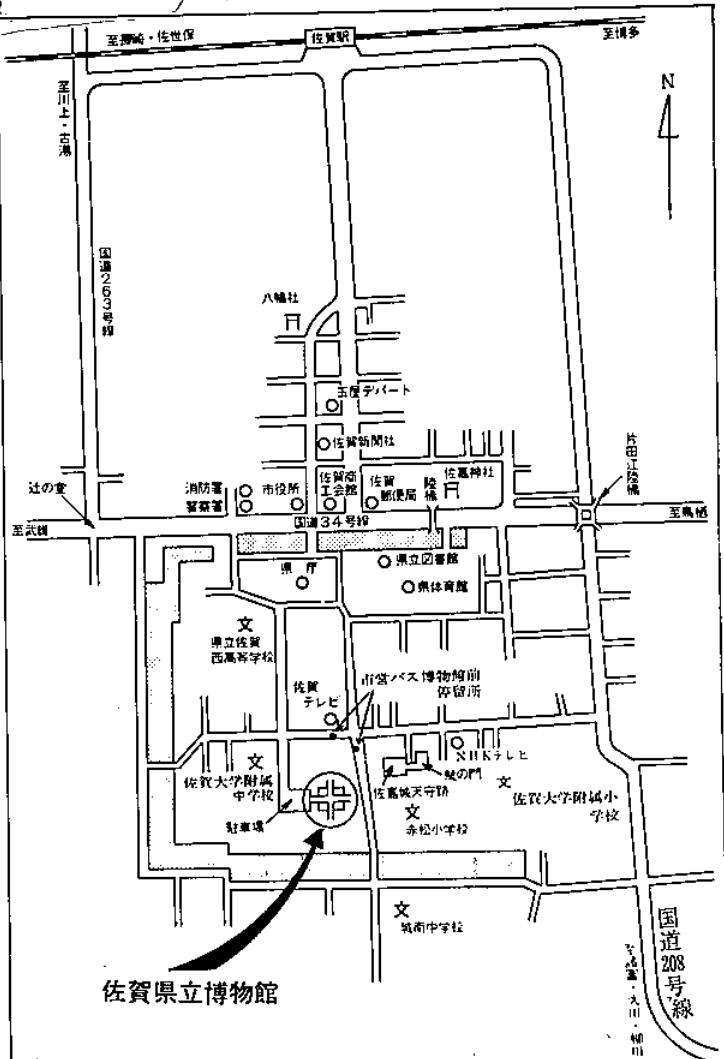
構 造 鉄筋コンクリート造 3階建
 規 模 敷地面積 30,962.0m² (公園を含む)
 建築面積 2,149.1m²
 延床面積 4,638.0m²

施設概要

ロビー	中 展示室	136.0m ²	荷 解 場	86.0m ²
(案内所、常設展受付)	研究室(ガス、水道つき)	66.0m ²	電 気 室	48.0m ²
1号展示室	事務室	80.0m ²	ポイラー室	157.0m ²
2号展示室	資料調査室	64.0m ²	食 堂	60.0m ²
3号展示室	撮影暗室	24.0m ²	収蔵庫	344.5m ²
大 展示室	車 庫	56.0m ²		

1,689.1m²

位 置



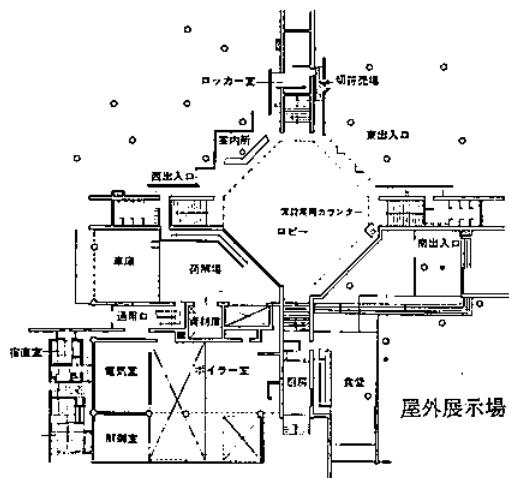
交 通 機 関

佐賀駅から市営バス市内右廻り 博物館前下車
 左廻り

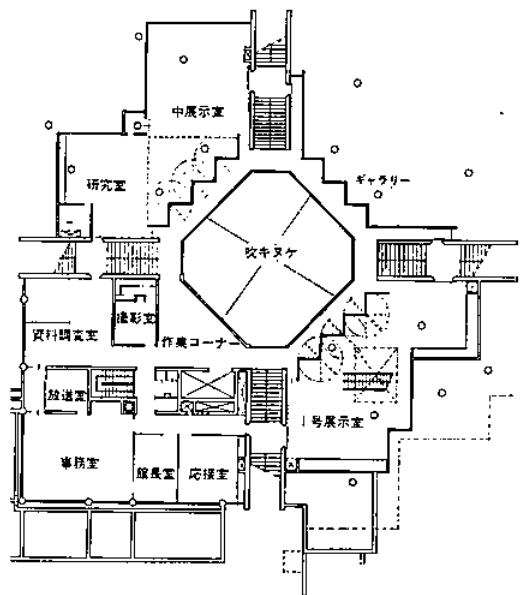
各バス（昭和、祐徳、市営）で県庁前下車
 南へ 300m 徒歩12分

平面図

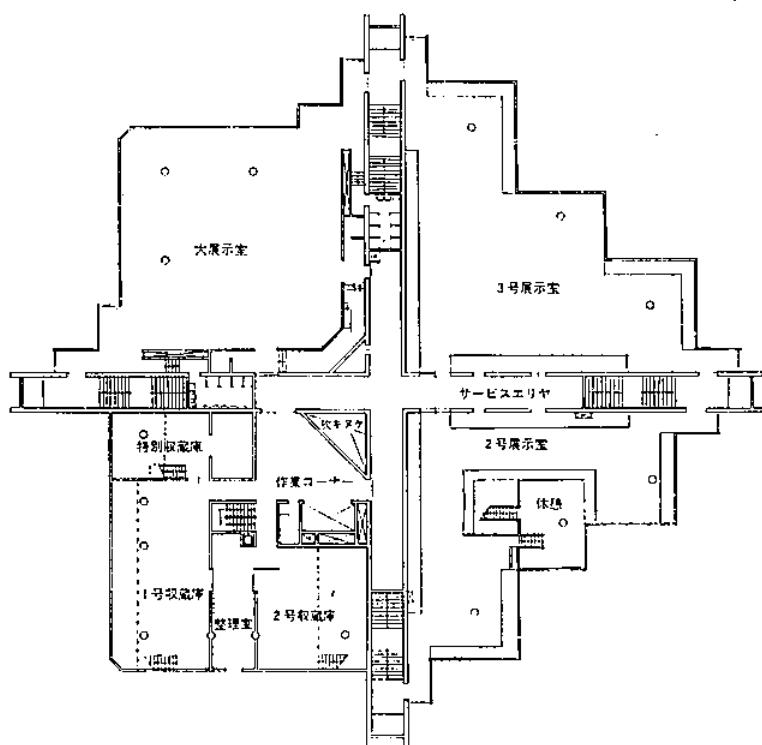
1階平面図



2階平面図

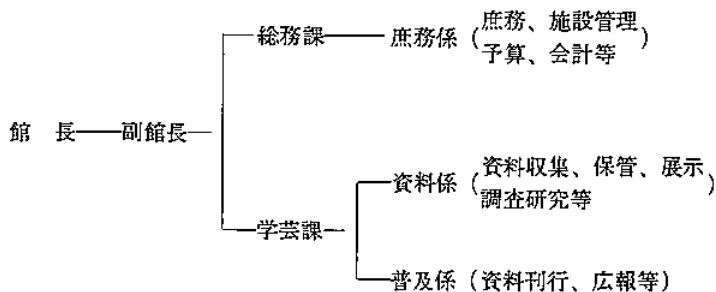


3階平面図



3. 機構および職員の構成

(1) 機構



(2) 職員構成

職員名簿 (47・3・31現在)

館 長	古 木 秀 男	賀 下 之 治	木 手 下 静	之 静	治 雄
副 館 長	下 富 納	富 村 武	木 森 醇	雄 巧	一 朗
總 務 課 長	西 中 吉	正 ヲ	森 三 酒	英 夫	一 郎
庶 務 係 長	田 中 吉	ヤ 宣 久	下 輪 形	善 邦	郎
事 事 补	柳 小 吉	武 二 (川)	塚 下 静	一 雄	一 雄
技 師 补	岡 小 石	喬 次	木 木 醇	英 善	市
事 務 員 (守)	坂 井 彦	卓 三	森 三 尾	善 保	
" (用)	小 竹 下	武 仁	江 口 実	儀	
技 師 (兼)	江 小 森	清	小 森 清	久	
" (兼)					

※人事異動

- 昭和46年6月21日 資料係長、久保儀市退職
- 昭和46年7月1日 久保儀市、佐賀県立博物館資料調査事務嘱託発令
- 昭和46年9月1日 副館長、熊谷正門 社会教育課長へ転任
- " 学芸課長、木下之治 副館長へ昇任 兼ねて、学芸課長
- " 事務職員、手塚静雄 資料係長へ昇任
- " 出納室用度係長、納富武一 当館総務課長へ転入

4. 博物館協議会

(1)佐賀県立博物館協議会委員

1. 定員 15名以内
2. 任期 昭和45年7月16日付(2年間)

種別	氏 名	年令	現 職 名	住 所
学 校 会 教 育 関 係	高添門司	72	佐賀県公民館連合会長	伊方里市大川町大川野
	進藤坦平	71	相知町教育長 佐賀県市町村教育長会連合会副会長	東松浦郡相知町大字牛田部坊中
	深川三胤	58	佐賀市立赤松小学校長	佐賀市天祐1丁目1~2
	川添一	55	唐津西高等学校長	唐津市西城内5-14
学 識 経 験 者	星野英夫	80	鹿島市祐徳博物館長	鹿島市城内
	村山宅美	68	佐賀女子短期大学教授 佐賀県理科教育振興会会長	佐賀市北川副町木原4本柳 160
	内山良男	68	佐賀大学名誉教授 佐賀県社会教育研究会会長 佐賀県文化会議会長	佐賀市本庄町五本杉
	三好不二雄	66	佐賀大学名誉教授 佐賀女子短期大学教授	佐賀市赤松町11-11
	石本秀雄	61	佐賀大学教育学部教授 佐賀県造形教育振興会会長	佐賀市松原町中の小路9-29
	谷口鉄雄	60	九州大学文学部教授	福岡県大宰府町白川1~27
	難波栄	60	佐賀新聞社論説委員長	佐賀市唐人町1丁目県営住宅235
	牛島国枝	60	佐賀県議会議員	佐賀市城内2丁目12~12
	岸田勉	55	佐賀大学教育学部教授	福岡県久留米市津福本町931の5
	岡崎敬	46	九州大学文学部助教授	福岡県福岡市香椎御幸町合同宿舎RC9-14
	米倉利昭	40	佐賀大学教育学部助教授	佐賀市本庄町大字五本杉528の1
	合 計	15名		

(2)協議会開催状況

第1回

月日 昭和46年6月26日(土)

- 議題①新委員の紹介
- ②副委員長の選出について
- ③45年度事業の概況について
- ④46年度事業について
 - 補正予算の概要について
 - 調査研究事業について
 - 資料の整備計画について
 - 常設展について
 - 特別企画展について
- ⑤その他

第2回

月日 昭和46年11月6日(土)

- 議題①新委員の紹介
- ②秋の特別展の概要について
- ③昭和47年度事業について
- ④その他

第3回

月日 昭和47年2月17日(木)

- 議題①常設展の展示について
- ②47年度の事業計画について
- ③その他

5. 昭和46年度歳出予算一覧 (単位 円)

科 目	予 算 額	科 目	予 算 額
1. 博物館運営費	14,723,000	野鳥展	44,000
管理運営費	14,261,000	理科作品展	37,000
会議及び研修費	269,000	坂の下縄文遺跡展	15,000
博物館協議会費	193,000	日本古美術展	892,000
2. 資料整備費	22,678,000	齊白石名作展	1,418,000
資料購入費	20,882,000	明治大正昭和名作美術展	1,702,000
資料整理費	1,796,000	5. 常設展示手費	175,000
3. 調査研究費	647,000	6. 著及活動費	532,000
研究費	380,000	研究講座費	49,000
調査費	267,000	資料刊行費	483,000
4. 特別企画展開催費	4,108,000	計	42,863,000



日本古美術展開場式（竹下副知事、東博開普及課長、大園県教育長）

博物館事業の概況

I、展覧会

(I)企　　画　　展

◎ 野　鳥　展

主　　催　　佐賀県立博物館

会　　期　　昭和46年5月20日(木)～5月30日(日)

会　　場　　中展示室

観覧者数　　3,187名

全国的に実施されている愛鳥週間行事の一環として、5月20日から30日まで野鳥展を開催した。展示物は野鳥および野鳥保護関係資料30点、野鳥生態写真49点、刺繡野鳥標本 131点合計 210点。

実施に先だって佐賀野鳥の会副会長音成三男、佐賀県鳥獣審議会委員齊藤哲次、佐賀県鳥獣保護員牧瀬馨の3氏に野鳥展の企画についての意見をもとめた。

会場の正面入口には松ノ木2本をおいてブロックでかこみ、松ノ木にはシジュウガラ用巣箱をかけ、下の根際にはキジのオス、メス各1羽をおき、コカワラヒワの巣1個を展示了。

刺繡標本はカササギの巣にとりつけたカササギ2羽をはじめ、キジ、ヤマドリ、ウズラ、コジュケイのキジ科の野鳥と、昭和6年製作し、佐賀大学の標本として保存されているオオワシや、ツミ、タカなどのワシタカ科、オシドリ、カルガモ、マガモ、ヨシガモ、ツクシガモなどガンカモ科、オオコノハズク、アオバズク、コムミズクのフクロウ科などで、その他はアトリ科、キツツキ科、メジロ科、ホオジロ科、ハト科、ウ科、アビ科、カワセミ科、シギ科などを分類、整理して展示了。

巣はまえにあげたコカワラヒワのほか、多年、各方面の協力で、集めることができたコゲラ、アオゲラ、エナガ、ホオジロ、セツカ、ヒヨドリ、オオヨシキリなどを巣の写真とともに、卵と一緒に展示了。

野鳥生態写真は、音成三男、牧瀬馨、木下英彦、福田司、木下博行の各氏の協力で本県県鳥カササギの生態を中心に、各野鳥の珍らしい生態、とくにイヌウメモドキの赤い実をくわえたヒヨドリのカラー写真と、群をつくったカササギの生態、餌をはこぶコゲラや44年1月21日県内で初めて撮影したマナヅルの写真を展示了。とくにマナヅルの写真は観覧者から注目された。

また野鳥保護のため「巣箱」と「庭に小鳥を」・「野鳥保護の手段」などのパネルによって、保護思想の普及につとめた。

会場の中展示室にはたえず美しい「野鳥の歌」の録音テープが放送され、常設展との併設展示ではあったが3,187名の入館者があった。近年公害問題と自然保護の必要性が、大きな社会問題となっているためだろうか、福岡、長崎の隣県からも熱心な観覧者があった。

◎ 有明海・玄海漁撈習俗展

会　　期　　昭和46年6月29日(火)～7月15日(木)

会　　場　　中展示室

佐賀県は南東部と北西部に各々有明海と玄海の2つの海に面しているが、その海をとりまく地形と生活様式の歴史は、まったく対象的な性格をもっている。

有明海沿岸は沖積土層が年々堆積し、潮の干満の差がはげしく、それによって出来る干潟には、特有の魚介類が生息し、それを捕獲する漁撈具や漁撈法には、極めて特色ある独自の習俗が見られる。しかし近年、時代の趨勢によって、その習俗は急速に衰微しつつある。

一方、玄海沿岸は対島海流で浸蝕作用が続き、海進や、リアス式海岸にみられる景勝の地形が多い。それに玄海には海流にのって北上してきた鯨を捕獲する特有の漁法があったが、これまた時代とともに絶えてしまった。

幸い、県教育委員会が数年にわたって収集してきたこれらの漁撈習俗関係の用具を公開展示することができ、海を舞台に生きてきた人々の生活の知恵と歴史をふりかえることができた。ここで展示した漁撈用具のうち有明海漁撈具関係は昭和40年に国の重要民俗資料として指定を受けているものである。

なお、この資料展で観覧者の理解をはかるために漁撈用具のほかに次の資料を用意した。

1. 干潟、沖合での漁撈の実際を撮した写真パネル、地形パネル、漁撈風俗絵巻
2. 漁撈にまつわる信仰、習俗の写真、俚諺、船歌の録音
3. 魚介類の標本

4. 生きた魚介類の実態を観察できるよう生態観察施設を設けて有明海の干潟を再現し、むつごろ70匹(27)、とびはせ18匹(18)、なぎ4匹(1)、わらすば15匹(3)、とうしろがに15匹(13)、はい貝20(20)、赤貝20(0)、ほうじや1(1)、こう貝1(1)、を飼育した。

() 中は最終日までの生存数

むつごろは翌日から営巣を始め観覧者の注目をあびた。

この資料展では音成三男、福岡博、坂井平太、田中吾太、早崎浩造の各氏から資料提供などの協力をえた。

観覧者数は常設展と併設したため、実数の把握はできなかったが、一応の成果をおさめることができた。

○ 有明海漁撈具関係出品名

155種 167点

<u>干潟漁撈具</u>	<u>33種</u>	<u>57点</u>			
素 板		1	くいぬき	(〃)	1
円 座		1	かきおとし	(〃)	1
押 桶		1	あやかきとり	(〃)	1
野下駄		1	かきあらい	(〃)	1
ダンペー		1	かきあらいかご	(〃)	1
むつつり竿		2	せつかはさみ	(〃)	1
むつつり針		3	たねとり網	(赤貝用)	1
むつどう廻し網		1			
むつほりぐわ		2	赤貝種とり (歩行用)	(舟用)	2
タカツボ		4	赤貝むき	(〃)	1
て ほ		1	赤貝かき	(〃)	1
うなぎかき		2	あさり種とり	(あさり用)	1
うなぎうけ		1	たねとり	(〃)	1
うなぎてば (捕獲用)		1	じゃんじゃんまい		1
うなぎてば		2	むきみとり網		1
うなぎはさみ		3	釜杓子		1
うなぎぬき		1	手網 (たぶ)		2
うなぎつかみ		1	貝とり		1
どうまる		2	すがい (すけあみ)		1
すばかき		2	うばかいかき		1
さしあい		2	貝かき (木柄付)		2
ねじ棒		2	貝かき (手とり用)		
がねてば		5			
かにかご		1	たいらぎかき		1
かにかき		1	はいがいとり		1
貝かご (べーかご)		2	貝かご		1
う さ		2	貝あらいかご		1
うけ網		1	よどごし		1
でがき		1	のりあらい		1
あげまきつり		2			
めかじやーかき		1	竹あみぬき		1
か ぎ		3	あみあせり		1
手がんづめ		1	なわかき		1

網用具及び付属品 14種 21点

<u>養殖具採集用具</u>	<u>29種</u>	<u>33点</u>		
かき種とり	(かき用)	1	はさみ	1
たねとり	(〃)	1	あぐい	7
かきよせ	(〃)	1	うおがた	1
			おもり	(馬蹄形)
				(陶 器)

ちん	1	テツボウエビ	1
うき桶	1	さより	1
木うき	1	しやこ	1
うきだる	1	むつごろ	1
浮竹	1	しまはぜ	1
竹うき	1	とびはぜ	1
		まで貝	1

つり用具 5種 25点

ふかつり針	1	しまかき	1
大すばり繩針	10	かわあい	1
あなご針	6	ハマグリ	1
(陶器)	6	てっぽうえび	1
たこつば (貝)	6	あげまき	1
ぶんちん	2	ありあけひめしらうお	1
		かたあしがね	1
		ありあけもどき	1
		いしかに	1
		ありあけしらうお	1
		しゃみせん貝	1
		たいらぎ	1
		かるかも	1

衣服類 4種 6点

みの	2	そ の 他	4種	6点
腰みの	1			
潜水服	1			
どんざ	2			

舟、生活用具 19種 20点

角舟	1	有明漁撈習俗図	3卷
生簀	1	鴨銃	1
水がめ	1	火蒸つめ	1
じろ	1	弾つくり	1
釜	1		
まくら箱	1	○ 玄海捕鯨関係出品名	22種 39点
あかくみ	2	捕鯨砲	1
(ポンプ式) (手くみ)		とつぶう	1
うお舟	1	じゃんす	2
うつとり	1	もり	2
米あらいかご	1	よろず	1
てぼ	1	大切庖丁	2
湯だる	1	大切刃先	1
おひつ	1	はらい	2
ごせん	1	手かぎ	1
ガスランプ	1	かぎ	4
つめかき	1	小骨切り	1
赤ランプ	1	いるかもり	3
角ランプ	1	三又もり	1
ふかほこ	1	いるか用薬きょう	2
		薬きょう	2

標本類 23種 23点

ひぜんく	1	砥石及び砥石入れ	1
わらすば	1	薬きょうしほり	1
ようじうお	1	ばつかんしめ	1
		火薬つめ	1

小川島漁業協同組合旗	1	がにとり実況	1
鯨化石	7	とうしろがに	1
肥前産物図考 第4帖	1	鴨	1
		竹崎港	1
◎ 写真パネル		潮干狩	1
有明漁撈関係 (21)		沖の島参り	2
むつづりの絵	1		
うみだけねじの絵	1	玄海捕鯨関係 (14)	
千 渕	1	捕鯨の実況	1
千潟漁撈	1	網取捕鯨図	1
むつづり実況	1	小川島納屋場	1
むつほり実況	1	小川島遠景	1
むつごろ	1	小川島観音堂	1
ワラスボかき実況	1	鯨鰐千本供養塔	1
はぜつり実況	1	鯨鰐供養六地蔵	1
さしあみ実況	1	小川島田島神社	1
はじあみ実況	1	小川島港	1
かにあみ実況	1	小川島山見小屋	1
三角あみ実況	1	大東丸	1
たてばしあみ実況	1	捕鯨実況	2
		解体実況	1

⑨ 坂の下縄文遺跡展

西松浦郡西有田町山本所在

場 所 中展示室

期 間 昭和46年 7月20日(火)~ 8月31日(火)

坂の下遺跡は佐賀県と長崎県とを二分する国見山の山麓が、平地にゆるやかなスロープをつくる標高約80mの舌状台地の先端、やや東寄り階段状に開かれた水田に位置し、この遺跡の近くを淨源寺川が流れている。

遺跡は昭和41年水田耕地整理の際発見され、昭和42年12月に第一次、昭和45年12月に第二次の発掘調査が実施された。この遺跡は縄文時代中期末の貯蔵穴遺跡であって、木の実・土器・石器などを中心に編みかご、木器など変化に富む相当多くの遺物が出土し、学術的にも高く評価されるものである。

展示は出土遺物を主体におこない、小・中学生にも理解できるよう多くの解説パネル・図絵・写真パネル等を用意し、佐賀大学理工学部竹山助教授に依頼した還元実験の結果も展示し、また、新聞紙上で20回に分け展示品を紹介した。

○ 坂の下遺跡展出品目録

各種縄文土器片	22	石 核	8
注口土器	1	磨 石	3
磨消縄文土器	7	たたき石	1
無文土器	3	と 石	5
輪積技法のある土器	2	石 斧	5
補修孔のある土器	10	ア ミ	7
土器の底部	9	カ ゴ	4
復元した円筒形土器	1	紐	4
紡錘車	9	木 皮	3
土 錘	1	木 器	1
その他土器製品	2	木 材	2
顔面把手	1	木 柱	2
朱塗り土器	1	チャンチンモドキ	2 箱

滑石の原石	1	アラカシ	3 箱
刀 器	17	シ イ	2 箱
打製石鎌	36	その他木の実	2 箱
剝片鎌	9	還元実験	一式
尖頭状石器	21	写真パネル	15枚
石さじ	1	絵・図パネル	13枚
削 器	8	文字パネル	6 枚

◎ 理科作品展

○ 佐賀市支部展

主 催 佐賀県立博物館 佐賀市理科教育振興会
 会 期 昭和46年 9月19日(日)～9月22日(木)
 会 場 大展示室
 観覧者数 1,596名
 出品数 123点
 授賞数 小学校 41点。中学校 25点。合 計 66点。

○ 佐賀県展

主 催 佐賀県立博物館。佐賀県理科教育振興会
 会 期 昭和46年 9月24日(金)～9月30日(木)
 会 場 大展示室、中展示室
 観覧者数 6,225名
 出品数 小学校 241点。中学校 74点。高等学校 13点。合 計 328点。
 授賞者数
 特 選 小学校 27点。中学校 16点。高等学校 7点。小 計 50点。
 入 選 小学校 48点。中学校 15点。高等学校 6点。小 計 69点。合 計 119点。

◎ 日本古美術展

主 催 東京国立博物館 佐賀県教育委員会 佐賀県立博物館
 会 期 昭和46年 9月11日(土)～10月3日(日)
 会 場 1・2・3号展示室
 観覧料 大人 180(150)円 大・高生 100(80)円 中・小生50(30)円。()は20名以上の団体
 観覧者数 12,850名
 趣 旨 東京国立博物館が全国各地域を巡回して行っている日本古美術展は、本年度が第10回で、このたびは佐賀県で開催することになった。

東京国立博物館は、日本および東洋諸地域の文化財を常時展観して、ひろく観覧に供している。この日本古美術展は、その数多い陳列品の中から、各時代、各分野にわたり、わが国の特色ある美術をえらび、それらを系統的に陳列して、日本の美術の流れを概観できるよう構成されている。

また、今回の陳列品の中には、国宝、重要文化財が多数含まれ、日本美術の歴史を概観するだけでなく、名品鑑賞の場となり、観覧者からよろこばれた。

なお、会期中に講演会、映写会を実施した。

内 容 考古、歴史資料39件、絵画26件、書11件、彫刻5件、刀剣13件、金工6件、陶磁器20件、漆工6件、染織3件、合計 129件。

記念講演会

期 日 46年 9月11日(土) 13時から
 会 場 大展示室
 講 師 東京国立博物館普及課長 関 忠夫氏
 主 題 日本美術の特色について

記念映写会

期　日　昭和46年9月15日(木)及び46年10月13日(木)

会　場　大展示室

映写フィルム (東京国立博物館貸与) 「古代の美」「上代彫刻」「飛鳥美術」「天平美術」「鎌倉美術」「室町美術」「浮世絵」「美の殿堂」

日本古美術展出品目録

国宝重文別	品　　目	時　代	数　量	備　　考
	鉢 形 土 器 繩文時代	1 個		千葉県姥山貝塚出土
	甕 形 土 器 " "	" "		青森県倉石村中市出土
	注 口 土 器 "	" "		東北地方出土
	土 偶 偶 偶 偶 偶	" "		埼玉県馬室出土
	壺 形 土 器 弥生時代	" "		秋田県六郷町石名館出土
	壺 形 土 器 "	" "		宮崎県高千穂町岩戸出土
	細 平 鋒 鋒 鋒 鋒	" 1 口		三重県明和町金剛坂出土 山口県富住町梶栗浜出土
	狭 広 鋒 鋒 鋒 鋒	" "		愛媛県道後湯町市筋出土 佐賀県唐津市久里出土
	狭 広 鋒 鋒 鋒 鋒	" "		長崎県佐志賀黒島出土 佐賀県鳥栖市袖比安永田出土
	重要文化財 銅 戈 鎔 范	" "	1 個	" 唐津市久里出土
重要文化財	流 水 文 銅 鑄	" "	4個のうち	佐賀県久保泉町櫻木出土
	袈裟 檜 文 銅 鑄	" "	3個のうち	兵庫県氣比出土
	谷 口 古 墳 出 土 遺 物	古 代	1 . 括	愛知県小坂井町伊奈出土
	玉 島 古 墳 出 土 遺 物	" "		佐賀県浜玉町谷口
	島 田 塚 古 墳 出 土 遺 物	" "		" 玉島
	車 鍬 輪 形 石 石	" "	1 個	" 唐津市鏡字今屋敷
国 宝	画 文 带 神 獣 鏡	" "		徳島県上八方村出土
	金 銅 環 頭 柄 頭 子	" "	1 面 個	鳥取県上神出土
	埴 輪 男 女 子	" "	1 軀	熊本県菊水町船山古墳出土
	" 馬	" "		静岡県森町出土
重要文化財	" い の し し 乌	" "	1 個	栃木県龟山出土
	" 水 い の し し 乌	" "		茨城県常盤町出土
	蓮 華 文 鑑 瓦 瓦	飛鳥時代	1 枚	群馬県大胡町出土
	忍 冬 文 字 瓦 瓦	" "		群馬県境町出土
重要文化財	大 和 壺 坂 寺 出 土 塼 仏	奈良時代	" "	大阪府応神天皇陵出土
	伊 福 吉 部 徳 足 骨 藏 器	" "	1 個	奈良県飛鳥寺址出土
	瓦 経	平安時代	1 枚	奈良県斑鳩町法隆寺出土
	銅 経 筒	" "	1 口	鳥取県宇部野村宮下出土
	佛 形 立 像	飛鳥時代	1 軀	三重県浦口町小町塚経塚出土
	佛 形 立 像 光 背	" "	2 枚	山梨県勝沼町柏尾臼山平出土
	押出阿弥陀三尊及比立形像	奈良時代	1 面	法隆寺館
	王 子 形 水 瓶	" "	1 口	"
(絵 画)	百 万 塔	" "	48基のうち 3基	"
	十 卷 抄 (卷 八 怒 愤 部)	" "	1 卷	
	動 物 戲 画	平安時代	1 幅	
重要文化財	虚 空 藏 菩 薩 像	鎌倉時代	1 幅	

国宝重文別	品 目	時 代	数 量	備 考
(金 工)	琴柱・大根・雪華文透鏑	室町時代	1 枚	甲冑師作
	蟹 透 鏑	"	"	無銘 尾張
	猛禽 捕猿 図 鏑	江戸時代	1 枚	無銘 志水甚五作
	二見ヶ浦 図 鏑	"	"	銘 後藤法橋一乗(花押)
	一輪牡丹 図 鏑	江戸～明治時代	"	銘 夏雄製
	一菩薩半跏思惟像	奈良時代	1 軸	和歌山県那智経塚出土
	(模)金銀平脱八角鏡	" 1	面	(原品 正倉院御物)
	瑞花双鳳八棱鏡	平安時代	"	
	蓮池文磬	" "		金峯山経塚出土
	金銅柄香炉	" 1	柄	
(陶 磁)	八角鏡	江戸時代	1 口	
	蓋付釜	奈良時代	1 口	埼玉県三芳村出土
	灰釉	平安時代	"	埼玉県朝霞町出土
	黄釉牡丹唐草文広口壺	鎌倉時代	"	古瀬戸 出土地不詳
	灰釉	室町時代	"	常滑
	灰釉水指	"	"	信楽
	志野橋文茶碗	桃山時代	"	美濃 銘橋姫
	志野山水文平鉢	"	"	" (紅志野)
	織部樹文角皿	"	"	"
	色絵花鳥文大深鉢	江戸時代	"	柿右衛門手
重要美術品	色絵萬葉垣文大皿	" 1	枚	鍋島
	色絵花鳥文跳子	" 1	口	古九谷
	色絵牡丹文水指	"	"	野々村仁清作
	色絵飛鳳文隅切膳	"	"	伝奥田穎川作
	黄釉荒磯浮文急須	"	"	青木木米作
	色絵草花浮文煎茶碗	" 5	口	"
	一重口水指	桃山時代	1 口	備前
	黒釉茶碗	"	"	銘尼寺、長次郎焼
	黒釉文琳茶入	江戸時代	"	銘望月 薩摩焼
	茶織部手鉢	桃山時代	1 本	片桐石州作
(漆 工)	(模)笠鳥蒔絵手箱	奈良時代	1 張	(原品 正倉院御物)
	千吉蒔絵硯箱	鎌倉時代	1 合	
	住吉蒔絵硯	室町時代	1 合	
	菊蒔絵角盤	桃山時代	1 箇	
	桃尾長鳥蒔絵鞍鑑	江戸時代	1 具	
	桐鳳凰蒔絵高盤	" 1	基	
(染 織)	上代裂帖	飛鳥～奈良時代	1 帖	
	納戸繪子地龟甲橘模様打掛	江戸時代	1 領	
	赤地梅樹模様匹田振袖	"	"	

◎ 画聖鐵斎名作展

主催 佐賀県教育委員会、佐賀県立博物館、日本経済新聞社
 会期 昭和46年10月7日㈪～10月22日㈮
 会場 佐賀県立博物館(1・2・3号展示室)
 観覧料 大人 150(120)円 大高生100(70)円 中小生50(30)円 ()は20名以上の団体
 観覧者数 3,176名

趣 旨 わが国の近代日本画壇のなかで1人孤高を守った特異な文人画家、富岡鉄斎（1836～1924）は、近年その作品がアメリカをはじめ海外に紹介されて以来、世界的な視野から注目された。

今日では、深い学識と人格にうらづけられた鉄斎の作品は、その彩色や構図によって、むしろ東洋絵画の一つの頂点を示すものであると考えられている。

本会場に出品された100点の遺作は、いずれも鉄斎の長い生涯での代表作ばかりで、これを機会に、現代の世界美術における日本画の位置をあらためて見直すこととした。

内 容 軸装71、屏風3、額表13、巻子3、余技10 合計100点

記念講演会

期 日 昭和46年10月9日(土)

会 場 大展示室

講 師 鉄斎研究所常任委員 富岡益太郎氏

主 題 「祖父鉄斎を語る」

画聖・鉄斎名作展出品目録

品 名	製 作 年 代	材 质	形 状
烟霞菖蒲図	元治1年	紙	軸
幽情月夜図	慶應3年	紙	軸
尼歌人図	明治1年	紙	軸
選人図	明治1年	紙	軸
隱山図	明治2年	紙	軸
四季花図	明治2年	紙	軸
養蚕図	明治9年	紙	軸
蚕本図	明治15年	紙	軸
日天図	明治16年	紙	軸
田養静図	明治16年	本	軸
桑丹図	明治16年	紙	軸
茶事秘録	不詳	紙	軸
豊筑公秘話	不詳	紙	軸
波耶山真景	不詳	絹	子子
馬北野大溪	明治23年	絹	子子
大耕會	不詳	絹	軸
鳩五春峯瀬日	不詳	本	軸
西洋醫祖祝	明治29年	紙	屏
還富家全	明治31年	紙	屏
聞名梅古	明治33年	絹	軸
擬士佐又平筆法遊秋	明治37年	紙	軸
戯聲	明治43年	絹	軸
人賦	明治45年	紙	軸
物意	年詳	絹	軸

◎ 第21回佐賀県美術展

主 催 佐賀県教育委員会・佐賀県立博物館

会期 昭和46年10月24日(日)～11月8日(月)

会 場 1 · 2 · 3号大展示室

観覧者数 14,898名

趣旨 県内在住者を対象に、日本画、洋画、彫刻、工芸、書、写真、宣伝美術の7部門を一般公募して、それぞれの専門家によって審査を行い、入選作と依嘱作家の作品及び審査員の作品を加えて展観し、県内美術の向上に資するため開催された。出品総数約400点。

◎ 第21回佐賀県高等学校美術展

主 催 佐賀県高等学校美術連盟・佐賀県立博物館

会期 昭和46年11月10日(水)～11月14日(日)

会 場 大展示室

観覧者数 2,300名

内 容 水彩20点、油絵 140点、デッサン15点、計 175点

◎ 明治、大正、昭和名作美術展

主 催 文化庁、佐賀県教育委員会、佐賀県立博物館

会 期 昭和46年11月16日(月)～11月28日(日)

会 場 1・2・3号展示室

観 覧 料 大人 150(120)円 大高生 100(70)円 中小生50(30)円 ()は20名以上の団体

観覧者数 7,655名

趣 旨 明治維新による社会の変革と欧化の前で、わが国の美術界もまだ必然的に近代化の道をたどることになった。そのため、西洋から移入された洋画は、一躍脚光をあびて新しい分野を開いたが、日本画もまた、西洋美術に刺激され、たえずその影響をうけながら、新しい変容をとげてきた。彫刻や工芸において同様であり、今日では、あらゆる分野の美術が以前にも増して海外の影響をうけながら、一方では、わが国の風土の中で独特な発展を見せている。

本展に陳列された約100点の作品は、日本画、洋画、彫刻、工芸部門における明治、大正、昭和の3代にわたるそれぞれの代表作から厳選されたものである。

本展によって、明治以来の日本美術の流れを理解するとともに、その背景となる近代日本の活力と文化をささえてきた人々の清新な意欲をあらためて汲みとる機会とした。

なお、会期中に記念講演会を実施した。

内 容 日本画39件、洋画34件、彫刻13件、工芸11件(陶芸4、金工2、漆工3、型絵染1、紙塑人形1)合計97件

記念講演会

期 日 昭和46年11月20日(土)

会 場 館内(中展示室)

講 師 佐賀大学教授 石本秀雄氏

主 題 近代美術における写実の展開

○ 出品目録

・左より作家名、作品名、製作年代、大きさ(たて×よこ 単位cm)

〈日本画〉

川端玉章(かわばたぎょくしょう)	群猿図	1890ころ(明23ころ)	227.3×144.7
下村觀山(しもむらかんざん)	熊野觀花	1894(明27)	61.5×120
小堀鞆音(こぼりともね)	経正詣竹生島	1896(明29)	181.5×83.5
菱田春草(ひしだしゅんそう)	渡舟	明治30年代	43.5×57
平福百穂(ひらふくひゃくすい)	田舎の嫁入	1899(明32)	111×65.5
橋本雅邦(はしもとがほう)	春秋山水図	1907(明40)	(双幅)各129.5×85
村上華岳(むらかみかがく)	雁	1907(明40)	144.2×82.7
竹内栖鳳(たけうちせいほう)	松虎図	明治後期	70.8×101
"	驟雨一過	1935(昭10)	194.8×91.5
今村紫紅(いまむらしこう)	風神雷神図	1911(明44)	(双幅)各108.1×41.2
"	春さき	1916(大5)	48×54.3
富岡鉄斎(とみかおてっさい)	陸茶懶品水図	1922(大11)	133×32
"	水墨清趣図	1924(大13)	144×39
速水御舟(はやみぎょしゅう)	名主の家	1924(大13)	33.3×31.3
横山大觀(よこやまたいかん)	山茶花と栗鼠	大正期	(二曲一双)各171×165
川合玉堂(かわいぎょくどう)	溪村早春		122×42
上村松園(うえむらしょうえん)	簾のかげ	1930ころ(昭5ころ)	141×42
松岡映丘(まつおかえいきゅう)	右大臣実朝	1932(昭7)	124×155.5
橋本関雪(はしもとかんせつ)	進馬図屏風	1933(昭8)	(二曲一双)各203×438
土田斐巻(つちだばくせん)	朝顔	1934(昭9)	98×130
小林古徑(こばやしこけい)	馬郎婦	1943(昭18)	73.2×90.8
徳岡神泉(とくおかしんせん)	鯉	1950(昭25)	131.5×119
安田靄彦(やすだゆきひこ)	大觀先生像	1950(昭25)	91.5×72

小倉遊亀（おぐらゆき）	娘	1952（昭27）	136×109
中村岳陵（なかむらがくりょう）	窓辺	1953（昭28）	146×109.5
橋本明治（はしもとめいじ）	金屏の前	1953（昭28）	91×65
奥村士牛（おくむらどぎゅう）	舞妓	1954（昭29）	125×97.5
"	踊り子	1956（昭31）	150.5×105.5
東山魁夷（ひがしやまかいい）	山かけ	1957（昭32）	139.5×88.5
杉山 寧（すぎやまやすし）	耿	1957（昭32）	143×121
前田青邨（まえだせいそん）	紅白海	1958（昭33）	62×89
"	三浦大介	1966（昭41）	81×93
平山郁夫（ひらやまいくお）	建立金剛心図	1963（昭38）	180×230
岩橋英遠（いわはしひでと）	記録(一), (二)	1964（昭39）	各136.5×152
山口蓬春（やまぐちはうしゅん）	夏	1965（昭40）	142.5×91
加山又造（かやまたぞう）	春秋波濤	1966（昭41）	170×366
横山 操（よこやまみさお）	立山黎明	1968（昭43）	73×116
"	蒲原落雁	1968（昭43）	73×116
上村松菴（うえむらしょうこう）	鶴	1971（昭46）	98.5×153

洋画

高橋由一（たかはしゆいち）	鮑	1875~78(明8~11)	127.5×36.5
久米桂一郎（くめけいいちろう）	秋景	1895（明28）	98×71
原田直次郎（はらだなおじろう）	海浜風景	1897（明30）	76×110.5
浅井 忠（あさいちゅう）	若葉	1901（明34）	24.5×35.3
満谷国四郎（みつたににくにしろう）	車夫の家族	1908（明41）	151×120.5
青木 繁（あおきしげる）	巨樹（筑後風景）	1908（明41）	81×60.3
岡田三郎助（おかださぶろうけす）	大隈伯夫人像	1909（明42）	91×60
中村 疾（なかむらつけ）	I氏母堂の肖像	1913（大2）	54×43.5
岸田劉生（きしだりゅうせい）	代々木山谷の路傍	1916（大5）	24.5×33
小出稽重（こいでならしげ）	婦人像	1918（大7）	95×83
黒田清輝（くろだせいき）	薔薇	1923（大12）	35×28
萬 鉄五郎（よろずてつごろう）	臥ている人	1923（大12）	79×116
佐伯祐三（さえきゆうぞう）	オワーズ川周辺風景	1924（大13）	61×73
中沢弘光（なかざわひろみつ）	花下月影	1926（大15）	130×162
中村不折（なかむらふせつ）	娘芋不答宣使	1928（昭3）	98×130.5
前田寛治（まえだかんじ）	裸婦	1928（昭3）	110×144
安井曾太郎（やすいそうたろう）	扇を持てる女	1929（昭4）	80×63.5
藤島武二（ふじしままたけじ）	屋島よりの展望	1932（昭7）	51×71
児島善三郎（こじませんざぶろう）	サンルームの見える裸婦	1932（昭7）	104×82
鈴 光（あいみつ）	鳥	1940（昭15）	45.5×38
山下新太郎（やましたしんたろう）	小春麗日	1941（昭16）	44×36.5
藤田嗣治（ふじたつぐはる）	臥裸婦	1941（昭16）	63×93
梅原龍三郎（うめはらりゅうざぶろう）	紫禁城	1943（昭16）	65×48.5
岡 鹿之助（おかしかのすけ）	水源地	1948（昭23）	47.5×67
坂本繁二郎（さかもとほんじょう）	炭斗	1949（昭24）	32×41.1
須田国太郎（すだくにたろう）	禽舍	1954（昭29）	50×63.5
脇田 和（わきだかず）	鳥寄せ	1954（昭29）	162.5×97
小糸源太郎（こいとげんたろう）	鳴門	1957（昭32）	43×47
熊谷守一（くまがいもりかず）	紅葉	1961（昭36）	24×33
麻生三郎（あそうさぶろう）	燃える人	1963（昭38）	130×193.5
高畠達四郎（たかはたけたつしろう）	ノードルダム	1965（昭40）	91×73
林 武（はやしたけし）	舞妓	1967（昭42）	116.5×91

山口長男 (やまぐちたけお) 村井正誠 (むらいまさなり)	孤 夜の人々	1968 (昭43) 1971 (昭46)	91×91 162.5×130.5
<彫 刻>			
荻原守衛 (おぎわらもりえ)	坑夫	1907 (明40)	47×45×31
藤川勇造 (ふじかわゆうぞう)	兎	1910 (明43)	14.5×13×31
新海竹太郎 (しんかいたけたろう)	一致	1911 (明44)	27.5×51×17.5
建畠大夢 (たけはたたいむ)	のぞき	1914 (大3)	67.5×47×43
橋本平八 (はしもとへいはち)	牛	1935 (昭10)	13.6×24×19
平櫛田中 (ひらぐしでんちゅう)	鳥有先生像	1941 (昭16)	106×35×31
高村光太郎 (たかむらこうたろう)	裸婦習作	1953 (昭28)	57×14×20
朝倉文夫 (あさくらふみお)	F子の像	1953 (昭28)	173×44×44
舟越保武 (ふなこしやすたけ)	原の城	1965 (昭40)	33×33.5×31
新海竹蔵 (しんかいたけぞう)	海女	1966 (昭41)	62×16×14
山本豊市 (やまもとよいち)	摘	1970 (昭45)	73×38×68
淀井敏夫 (よどいとしお)	海辺の女	1970 (昭45)	82×23×58
植木 茂 (うえきしげる)	連	1970 (昭45)	89×41×33

〈工芸〉

陶芸

板谷波山 (いたやはさん)	彩磁桜草文水差	1954 (昭29)	H16.7 R18.5
富本憲吉 (とみもとけんきち)	染付絵変組皿	1960 (昭35)	H4.3 R25
荒川豊蔵 (あらかわとよぞう)	志野茶碗	1958 (昭33)	H9.5 R13
浜田庄司 (はまだしょうじ)	掛合釉白格子大鉢	1970 (昭45)	H16 R58

金工

内藤春治 (ないとうはるじ)	赤とんぼ	1967 (昭42)	30×12.5×30
山脇洋二 (やまわきようじ)	金彩「神々」	1969 (昭44)	44.5×37.5

漆芸

赤塚自得 (あかつかじとく)	硯箱 銘「舞鶴」	昭和初期	6×22.5×26
増村益城 (ますむらますき)	乾漆流文盛器	1962 (昭37)	4.5×36.2×32.2
山崎覚太郎 (やまさきかくたろう)	赤富士	1970 (昭45)	53×45.5

型絵染

稻垣稔次郎 (いながきとじろう)	御室の塔	1961 (昭36)	31.5×36
------------------	------	------------	---------

紙塑人形

鹿児島寿蔵 (かごしまじゅぞう)	さぬのちがみのをとめ	1960 (昭35)	20.5×18.3×21.1
------------------	------------	------------	----------------

◎ 日本美術院展

主 催	佐賀県教育委員会・佐賀県立博物館
会 期	昭和47年1月21日(金)~1月30日(日)
会 場	1・2・3号展示室
観覧者数	7,454名
出品点数	58点
内 容	文化勲章作家及び芸術員会員作品など現代日本画優秀作品を新春特別展として7年ぶりに本県で開催した。

出 品 目 錄

44	栗の花さく最上川	同人	均	(京都)
45	'72 東京	同人	空茂	(東京)
46	矢作川(無鑑査)		之枝	(愛知)
47	祈		孝端	(栃木)
48	糸紡ぎ		倭文	(東京)
49	秋意		明暉	(愛知)
50	白の鼠		寛子	(東京)
51	遠い詩(うた)		義弥	(神奈川)
52	祖父昇天	同人	寿	(〃)
53	足摺城	同人	清数	(東京)
54	聖衆生	同人	多	(〃)
55	衆北湖(無鑑査)		中繩	(神奈川)
56	花市		菊大	(東京)
57	晩秋		平溝	
58			矢岩	(佐賀)
			京口	

◎ 佐賀県勤労者美術展

主 催 佐賀県・佐賀県立博物館
 会 期 昭和47年2月5日(土)～2月11日(金)
 会 場 大展示室
 観覧者数 1,260名
 内 容 絵画、写真、書、工芸等 235点

◎ 文明の十字路美術展

—シルクロードの生活と民芸—
 場 所 大展示室・中展示室
 期 間 昭和46年4月25日(日)～5月9日(土)
 主 催 佐賀新聞社
 観覧者数 17,404人

アジア大陸を横断する古代における東西の貿易路である、「絹の道」(シルクロード)は、一方では仏教、イスラム教などの東西文明の交流の重要な道でもあった。このシルクロードを通った文明は、中国から朝鮮を経て、わが国の古代文化に多くの影響を与えた。正倉院に今も保管されている宝物の中に、西欧、中近東、西域、インド、東南アジア、中国、朝鮮などの文化とのつながりを示す多くの遺品があって、如実にこのことを物語っている。

東海大学の学術調査隊がこのシルクロードを踏破し、パキスタン、アフガニスタン、トルキスタン、イラン、イラクで調査収集した、考古資料、民族資料を中心に、全国各地で公開しているものを、佐賀新聞社が主催しておこなったものである。

当館においてはこのような海外資料を展示することは初めてのことであり、小・中・高校生、一般の見学者にも好評を受け、会期も一日延期されるという盛りあがりであった。

〔主な展示品目録〕

- ガンダーラの仏教美術(25点)
- イラン高原の土器と陶器(101点)
- メソポタミアの土器(26点)
- イスラム教関係品(10点)
- 遊牧民の日常道具(29点)
- 平原とオアシスの生活品と民芸品(92点)
- シルクロードの楽器(14点)

(2) 常設展

自然史、考古、歴史、美術工芸および民俗の各部門にわたって佐賀県の歴史と文化を紹介することにつとめた。資料は本県に関連のあるものを主体に、一部他県のものを加え、全国的な立場に立って、佐賀県の歴史と文化的流れとその特質を明らかにする構想のもとに展示した。

昭和46年度の開館日数は、通算 213日であった。その内訳は 4月1日から9月5日までが前期で、これと併行して、シルクロード展、野鳥展、有明海・玄海漁撈習俗展、坂の下縄文遺跡展等を開催した。

後期は、12月4日から、3月31日までの期間でこれと併行して1月21日から1月30日まで日本美術院展、2月5日から2月11日まで佐賀県勤労者美術展を開催した。

なお、出品目録は、12月4日以降の後期のものであるが、これは4月1日から9月5日までの前期の分を部分的に手なおしたものである。

常設展出品目録

第1号展示室（自然科学）

石英（けい石）	富士町杉山
安 山 岩	多久市多久町東ノ原
真 珠 岩	山内町古場
陶 石	有田町白川
球状閃綠岩	多久市北多久町相浦
コレニヤ(渦巻石灰岩)	
(後期原生代、関東統)	中国東部関東州
パラフズリナ	山口県秋吉台産
魚類化石 (4)	南米ブラジル産
爬虫類化石 (1)	南米ブラジル産
光鱗魚化石 (1)	"
シタ化石	山口県大嶺炭田産
巻貝（笠型）	
イノセラムス	
三 角 貝	
アンモナイト	
ヨコヤマオウムガイ	北波多村稗田鮎返産
シキシマバス	北方炭坑内産
ヤナギ	
メタセコイヤ (2)	
ウニ	
二 枚 貝	伊万里市楠久麻生鉱業所産
サルノコシカケ科の一種	
キク料	
オオアワダチソウ	標 本
シマカンギク	"
ブゼンノギク	"
グルマギク	"
キンボウゲ科	
シュウメイギク	標 本
カブトガニ (2)	伊万里市波多津産
アカウミガメ	唐津市神集島産

カササギの巣	
カササギ (2)	剥製標本
カケス	"
ハシボソガラス	"
ホシガラス	"
コクマルガラス	"
ツグミ	"
ヒヨドリ	"
アオバト	"
アカヤマドリ	"
ニホンキジ	"
コウライキジ	"
恐竜(タイラノザウルス)生態模型	
佐賀県地形模型	25,000分の1
佐賀市街地図	2,500分の1
唐津市街地図	2,500分の1
有明海干がた生物模型	

第2号展示室（考古）

（先土器時代）

サヌカイト（安山岩）原石
黒曜石の原石
鬼の鼻山遺跡出土の尖頭器
三年山遺跡出土の尖頭器
茶園原遺跡出土の尖頭器
馬渡島切立遺跡出土の細石器
盗人岩洞穴遺跡出土の土器・石器
（縄文時代）
坂の下遺跡の環元実験一式
坂の下遺跡出土の木器・紐・織物
坂の下遺跡出土の土器・石器
坂の下遺跡出土の各種木の実
青森県出土の中・後・晩期の完形土器

(弥生時代)

土生遺跡出土の炭化米
田手・切通遺跡出土の石ボウチョウ
詫田貝塚出土の土錘と貝
大友遺跡出土の貝釧と他の装身具
大友遺跡出土のカメ棺・壺棺
大友遺跡出土の伸展葬と屈葬人骨
大友遺跡出土の男女頭骨と抜歯のある頭骨
志賀島出土の金印（模造）
桜馬場出土の鏡・銅釧・巴型銅器他（重要文化財）
糀島山遺跡出土の鏡・刀子・勾玉・管玉
東宮裾遺跡出土の星形銅器と管玉
佐賀県出土の弥生式時代各種銅鏡
佐賀県出土の弥生式時代各種武器

（古墳時代の祭祀遺物）

滑石製平玉
滑石製勾玉
滑石製有孔円板
土製の鏡・勾玉・鈴
手捏土製の器台・埴

（以上伊勢山遺跡出土）

（古墳時代）

米（炭化米）、（伊勢山遺跡出土）
北方町永池古墳の線彫文様（人物像）
白石町新開古墳の線彫文様（斜格子文）
田代、太田古墳模型 50分の1

〃 〃 壁画模写図

平城宮跡出土肥前国からの木簡（写真）

（歴史時代）

大願寺廃寺跡出土瓦
蔵骨器 大和町出土
小城町峰出土
大町町大谷口仏法堤経塚出土品
多久町山崎経塚出土品
佐賀の古墳（写真パネル）
円 墳
前 方 後 円 墳
堅 穴 式 石 室
横 口 式 石 室
横 穴 式 石 室
粘 土 榻
箱 式 石 棺

第3号展示室（歴 史）

（仏教資料）

法隆寺金堂左脇侍菩薩図像（模写）
八字文殊菩薩騎獅図像（県重要文化財）
木造聖観音立像（重要文化財）
木造帝釈天立像（重要文化財）
木造持国天立像（県重要文化財）

木造持国天立像（県重要文化財）

木造円鑑禪師坐像（重要文化財）

水上 懸仏（県重要文化財）

銅製 鰐口

紙本墨書き 梵網經（重要文化財）

石造 観世音菩薩坐像

〃 肥前狛犬

（近世資料）

竜造寺隆信画像

大友軍の兜

朝鮮の役の陣立書

秀吉朱印状

肥前名護屋城図屏風

鍋島直茂画像

〃 着用の鎧

鍋島直茂 自筆書状

鍋島勝茂 画 像

〃 自筆書状

洪浩然の書

（肥前の金工資料）

刀 初代忠吉作 3口

二代忠吉作

三代忠吉作

短刀 初代忠吉作

藤原正廣作

槍先 初代忠吉作

源 盛吉作

鐸 藤原忠長作ほか22個

縄頭 自流軒常延作

三所物 古川松根作網干に雁の図

口宣案 藤原正廣 2

忠吉家一門の金床

行廣家一門の金床

〃 仕事台

正廣家一門の石舟

宮田家文書 4通

宮田勝貞作 鎧

橋本新左衛門忠長作 火なわ式銃大筒

（佐賀藩先覚者の書画）

葉がくれ（写本）小山本 6 山本本

石井鶴山の書

古賀精里の書

古賀穀堂の書

古賀洞庵の書

草場佩川の絵

草場船山の絵

谷口藍田の書

伊東玄朴の和蘭字典 2

〃 医療正始 6

秀島鼓溪著積慶錄 5

" 農桑道利	14
正司孝祺著家職要道	9
正司孝祺著經濟問答秘録	5
(幕末における西洋文化の交流資料)	
舍密便覧	14
トロムドルフ製薬化学書	2
ウイットステイン製薬化学書	1
精煉方銘染付徳利	
火薬調合陶器	3
測量器	
顕微鏡	
望遠鏡	
銅製21ドライム モルチール (天保6年製白砲)	
" カノン砲 (施條先込野砲)	
" 15ドライム ハンドモルチール	
パリ万博 (1867) 出品各国カタログ	10
パリ万博土産 シャンティエ窯 花瓶	
" 色ガラス皿	6
" モートン社サラダオイル	4
" ベック、ロンドン銘顕微鏡	

種痘の図

築地鉄砲製造所図

(県内の城跡 写真)

帶隈山神籠石

おつば山神籠石

基肄城跡

岸岳城跡

名護屋跡

唐津城跡

佐嘉城跡

大展示室 (美術工芸)

(陶芸)

唐津系

飴釉大壺

元和四年銘入陶片 (川古窯)

飴緑釉流し柳目文こね鉢 (大谷窯)

飴緑釉山岳絵こね鉢 (弓野窯)

緑釉花瓶 (金石原窯)

飴釉花瓶 ("")

緑釉花瓶 ("")

絵唐津茶碗 (藤の川内窯)

辰砂茶碗 (椎峰窯)

四方皿 (帆柱窯)

花入 (藤の川内窯)

朝鮮唐津徳利 (藤の川内窯)

絵唐津皿 (道園窯)

ぐいのみ (岸嶽飯洞窯)	
朝鮮唐津茶碗 (岳野窯)	
船徳利 (藤の川内窯)	
すり鉢 (帆柱窯)	
松絵鶴首徳利	
絵唐津水指	
徳利 (藤の川内窯)	
徳利 (山瀬窯)	
飴釉流し水指	
雲鶴象嵌文鉢	
朝鮮唐津茶碗 (帆柱窯)	
古唐津茶碗 (帆柱窯)	4
" (道園窯)	
" (藤の川内窯)	
" (阿房谷窯)	
ぐいのみ (藤の川内窯)	
" (道納屋窯)	
" (飯洞窯)	2
" (皿屋窯)	3
" (帆柱窯)	3

伊万里創業期系

青磁茶碗

染付唐草文徳利

染付草花文徳利

染付松梅文筒型碗

飴釉染付兎文台皿

染付花蝶文皿

古伊万里系

彩絵風俗図徳利

染錦風俗図八角壺

御所車風俗絵ひげ皿

染錦唐子絵手付瓶

さび牡丹唐獅子角瓶

彩絵亀甲花詰文角瓶

さび染付八角蓋物

彩絵唐花文鉢

彩絵三方花文鉢

染付花鳥皿 (VOC商標入)

染付花鳥図水指

彩絵花鳥文深鉢

染錦婦人像

参考品

白竜浮彫金襤手大花瓶 (明治26年作)

藩窯系

染付藩窯絵図大皿

鍋島染付青磁扇文高台皿

色鍋島椿つなぎ変形皿

鍋島染付筆絵台皿

色鍋島ばら絵台皿
 色鍋島柴垣朝顔絵台皿
 染付棕櫚文高台皿
 色鍋島更紗文高台皿
 " "
 鍋島青磁耳付花器
 柿右衛門系
 彩絵飛竜図陶板
 染付花鳥文徳利
 彩絵花蝶文輪花型深鉢
 乳白手色絵花蝶八橋文壺

(絵画)
 老婦人像 百武兼行
 イタリー風景 "
 マンドリンを持つ少女 "
 シンガポール 小代為重
 少女 "
 テームス河畔 小代為重
 久米桂一郎の肖像 "

秋景 久米桂一郎
 清水寺 "
 フランス風景 "
 姉の像 "
 泊船 "
 大隈伯夫人像 岡田三郎助
 花野 "
 風景 "
 裸婦 "
 男の像 "
 ランプ "
 神話 "
 夕焼の海 "
 パリーの踊子 "
 みどりの庭 "
 セヌ河畔 北島浅一
 山口亮一
 武藤辰平

(書)
 副島種臣
 中林梧竹
 西川春洞

(3) 観覧者数

日本古美術展(昭和46.9.11~10.3) 開館日数 23日間

個 人			團 体			招待者	優待券	合 計	1日平均 観覧者数
大 人	大・高	中・小	大 人	大・高	中・小				
4,271	920	2,974	183	1,460	2,000	953	89	12,850	558.7 人

鐵斎展(昭和46.10.7~22) 開館日数 16日間

個 人			團 体			招待者	優待券	合 計	1日平均 観覧者数
大 人	大・高	中・小	大 人	大・高	中・小				
1,387	295	200	64	29	586	563	52	3,176	198.5 人

明治・大正・昭和名作美術展(昭和46.11.15~28) 開館日数 14日間

個 人			團 体			招待者	優待券	合 計	1日平均 観覧者数
大 人	大・高	中・小	大 人	大・高	中・小				
2,237	436	736	173	1,214	2,160	636	63	7,655	546.7 人

共催の展示事業

事業名	期日	期間	観覧者数	備考
佐賀市児童・生徒理科作品展	昭46 9・19~9・22	4	人 1,596	●佐賀市理科教育振興会と共催 ●大展示室使用
佐賀県児童・生徒理科作品展	" 9・24~9・30	7	6,225	●佐賀県理科教育振興会と共催 ●大・中展示室使用
第21回佐賀県美術展	" 10・24~11・8	9	14,898	●佐賀県教育委員会と共催 ●2・3号、中・大展示室使用
第21回佐賀県高等学校美術展	" 11・10・11・14	5	1,462	●佐賀県高等学校美術連盟と共催 ●大展示室使用
日本美術院展	昭47 1・19~1・30	10	7,454	●佐賀県教育委員会と共催 ●2・3号展示室使用
佐賀県労働者美術展	" 2・5~2・11	7	1,260	●佐賀県と共催 ●大展・中展示室使用
計		42	32,895	

常設展 昭和46・4・1~9・5

46・12・4~12・26

47・1・5~1・16

47・2・4~3・31 開館日数 213日

昭和47・3・31現在

	個人			団体			随時観覧			合計	1日平均 観覧者数
	大人	大・高	中・小	大人	大・高	中・小	大人	大・高	中・小		
有料	6,469	2,179	4,633	1,398	220	175	8	5	20	15,107	人 106.4
無料	888	358	789	272	402	4,844				7,553	
計	7,357	2,537	5,422	1,670	622	5,019	8	5	20	22,660	

注 無料の欄は観覧料免除者の数である。

個人観覧の場合の無料は「こどもの日」「成人の日」等の観覧者数

団体 " 県内の小中高校の児童生徒を教師が引率した団体観覧者数

2. 普及活動

(1)講演会

○9月11日

「日本美術の特色について」

東京国立博物館普及課長 関 忠夫氏

○10月9日

「祖父鉄斎を語る」

鉄斎研究所常任委員 富岡益太郎氏

○11月20日

「近代美術における写実の展開」

佐賀大学教育学部教授 石本 秀雄氏

(2)資料刊行

○図録

●日本古美術展図録

- 画聖鉄斎名作展図録
- 明治大正昭和名作美術展図録
- 再興第五十六回院展選集

○年報 B5 80頁 年1回
○博物館報 B5 8頁 年6回

(3)移動博物館

関係市・町と共催で、当館所有の考古資料を展示公開し、当館職員による講演会を各会場で実施した。

名 称	会 場 各	期 日	観覧者数
第1回移動博物館	西有田町公民館	昭46・10・9~10・13	2,261人
第2回	呼子町社会体育館	" 11・1~11・5	1,382
第3回	伊万里市公民館	" 11・10~11・14	6,050
計			9,693

(4)博物館研究講座

博物館と学校、地域社会との連携強化をはかるため、博物館資料を中心とした講座を各部門別に中展示室で実施した。

期 日	演 題	講 師 名	聴講者数
昭46・6・19	古墳時代の佐賀県とその文化	副館長 木下 之治氏	112人
46・9・4	北九州におけるカササギの分布について	佐賀大学助教授 久保 浩洋氏	48
47・1・22	近代日本美術の本質について	佐賀大学教授 岸田 勉氏	63
47・2・19	肥前名護屋城をめぐる諸問題	佐賀大学名誉教授 三好不二雄氏	27
47・3・25	佐賀県の石造文化について	副館長 木下 之治氏	28
計			278

(5)博物館教室

県内（主に佐賀市郡・神埼郡）小・中学校の児童・生徒を対象に、当博物館資料を中心とした博物館教室を次のとおり実施した。

期 日	博 物 館 教 室				聴講者数
	題 名	担 当	題 名	担 当	
昭和47年 1月16日	人類と石器	森	仏像の話	木下之	370人
2月5日	岩石と化石 農耕文化の始まり	手塚 木下巧	やきものの話 佐賀藩の大砲	久保 尾形	268
2月6日	岩石と化石 人類と石器	手塚 森	やきものの話 仏像の話	久保 木下之	187

2月26日	岩石と化石 農耕文化の始まり	手塚 木下巧	やきものの話 佐賀藩の大砲	久保 尾形	160
2月27日		同	上		135
3月4日	古い寺の話 絵の話	木下之 三輪	野鳥の話 装飾古墳の話	手塚 木下巧	58
3月5日		同	上		90
3月18日		同	上		81
3月19日		同	上		83
計					1,349

(担当欄は当館職員)

3. 発掘調査

白蛇山岩陰遺跡第1次発掘調査

伊万里市東山代町脇野所在

遺跡は国見山麓端、標高約100mの岩戸山の山中に南面していて、上部岩陰と下部洞穴との2ヵ所からなっている。近隣する岩戸山貝塚とともに昭和43年5月発見され、内年9月に岩陰遺跡の予備調査が実施された。その結果13層からなる層位が確認され、縄文時代前期の曾畠式土器から先土器時代に至る細石核、尖頭状石器等が発見された。

今回は遺物と層位との関連性を明かにし、本県における先土器時代から、縄文時代への移行期における文化の発明を主題とし、さらにこの遺跡に近隣する洞穴遺跡との比較検討を行なうことによって、この遺跡の文化史的意義を追求することを目的とした。

発掘調査は当館と伊万里市教育委員会が主催し、白蛇山岩陰遺跡第一次発掘調査団を組織し、佐賀大学、伊万里市郷土研究会の援助を受け、昭和46年7月25日から8月3日までの10日間実施した。

調査は上部岩陰の中心部に幅2m、長さ6mのAトレンチと、岩陰の北端に幅2m、長さ4mのBトレンチの2本を設定し、遺物の出土状況を正確に記録するため、原位論と層位論を併用する方法を用いた。

調査の結果、中心部のAトレンチで出土遺物が密であるのに対し、Bトレンチは中心部よりはずれているため出土量はきわめて少ない。主な出土遺物は上層部で縄文後・晚期の土器が主体をなし、これに伴なつて剝片鏃、ブレイド、不定形コアーが出土した。Aトレンチの遺物の中では石器類の出土量が驚異的に多いのが特に注目される。Aトレンチでは阿高系土器の層位まで掘り下げて一応第1次調査を打切り、第2次調査に期待をかけることにした。

Bトレンチは一応基盤層までの発掘を終ったが、下層部より予備調査時に確認された尖頭状石器が発見された。発掘調査終了後、調査団本部の東山代町公民館において、8月4日から8月5日までの2日間展示会を実施した結果、多くの見学者があり先祖の生活のあとを知ろうとする地元の人々の熱心さがうかがわれた。また県の広報担当者も広く県民に文化財保護を訴えるため、長期間滞在しフィルムに収録し、テレビの15分番組で放映するという協力をしていただいた。

なお、遺跡の発掘調査と併行して、遺跡付近に散在している石造物等の調査をも平行して実施した。昭和47年度に第2次調査を実施する予定であって、その後に報告書を出版する考えである。

4. 研修会

鉄器・木器の保存処理法研修会

1期日 第1回目

昭和47年3月10日から3月15日まで

第2回目

昭和47年3月26日から3月29日まで

2講師 奈良国立文化財研究所・平城宮跡発掘調査部

技官 沢田 正昭氏

3対象 佐賀県立博物館職員・県社会教育課文化室職員・県内市町村教育委員会職員ほか郷土の文化財研究者。

4概要

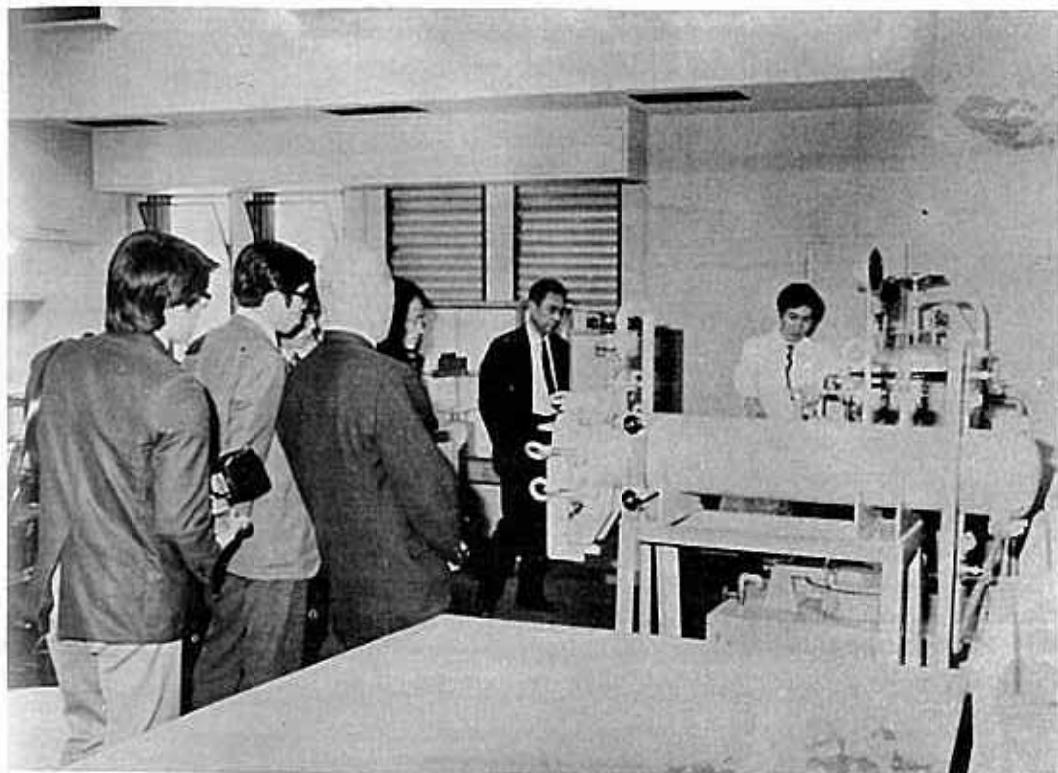
当館は、原始・古代、なかでも古墳時代の考古資料の中に、金属性遺物を数多く所蔵している。この金属性遺物の主なものは鉄であって、発掘されてから時間の経過に伴って酸化と剥離がはげしく、資料本来の姿を保っているものは数が少なく、資料的価値を半減している現状である。従来は資料の酸化と剥離を防止するために、接着剤を使っていろいろと努力してきたが、それでも内部の腐蝕は防止することができなかつた。

このようなとき、文化財の保存科学に力を注いでおられる奈良国立文化財研究所の協力を得て、金属器の保存処理機器と、木器保存のための容器と薬品等を購入し、金属器・木器の保存に力を入れることにした。

なお、処理方法の要領は概略次のとおりである。

1. 資料を定温乾燥器に入れて乾燥する。
2. 乾燥した資料を減圧タンクに入れて減圧する。（金属器の内部にまで合成樹脂を浸透させるため。）
3. 減圧状態のまま合成樹脂（バラロイドN A D-10）を注入含浸させる。
4. 数時間後、常圧にもどし、さらに数時間放置して合成樹脂を放出し、資料をとりだす。
5. 資料の接着、整形などを行う。

これによって金属器は合成樹脂の膜によって覆われ、酸化と剥離を防止することができる。



鉄器・木器保存処理研修会風景



研究講座風景



博物館教室風景

博物館資料の概況

資料は大別して自然史資料、考古資料、歴史資料、美術工芸資料、民俗資料、に分類しているが、その概況はつぎのとおりである。

資 料 約35,000点

自然史資料 約4,500点

佐賀県地形模型（25,000分の1）

恐龍（タイラノザウルス）の生態模型（2分の1大）

原生代（コレニヤ）・古生代（パラフズリナ・シダ）

中生代（魚類・アンモナイト・ヨコヤマオウム貝）

新生代（メタセコイヤ・シキシマバス・二枚貝・サメ）

} の各種化石

県内の岩石・植物・昆虫・野鳥などの標本

有明海・玄海の魚貝類標本

天然記念物カササギの生態資料

有明海の干潟と生物の模型

考古資料 約12,600点

先土器時代

杵島郡鬼の鼻山、多久市三年山・同茶園原遺跡出土の尖頭器

馬渡島切立遺跡出土の細石器

縄文時代

西有田町盗人岩洞穴出土の石器・土器

西有田町坂の下遺跡出土の石器・土器・木器・編み物・木の実

青森県出土の繩文式土器

弥生時代

三日月町土生遺跡出土の石器・土器・木器・炭化米・木の実

呼子町大友遺跡出土のカメ棺・裝身具・伸展葬と屈葬人骨

唐津市桜馬場出土の鏡・銅釧・巴型銅器ほか（重要文化財）

北方町東宮裾・桃島山遺跡出土遺物の一括遺物

県内出土の各種銅鏡・銅剣・銅弋等

上峰村切通・唐津市葉山尻・神崎町八子遺跡等出土のカメ棺

古墳時代

佐賀市熊本山出土の舟型石棺ならびに副葬品（県重要文化財）

県内出土の武器武具・農耕用具

基山町伊勢山遺跡出土の祭祀遺物

北方町永池古墳の線刻文様（人物）

鳥栖市太田古墳（史跡）の模型および同古墳の壁画模写図・復原図

歴史資料 約1,100点

基肄城跡（特別史跡）出土瓦

国分寺跡出土瓦および同寺瓦窯跡出土瓦

県内出土の藏骨器

県内出土の在銘経筒

木造聖観音立像（重要文化財の模造）

木造帝釈天立像（重要文化財）

木造持国天立像（県重要文化財）

木造円鑑禪師坐像（重要文化財）

八字文珠菩薩騎獅図像（県重要文化財）
大和町水上懸仏（県重要文化財）
肥前鐘（県重要文化財）
今山合戦関係資料
豊臣秀吉の朱印状ほか文禄慶長の役関係資料
肥前名護屋城図屏風
朝鮮国禮曹の通諭文
鍋島直茂・同勝茂の画像および自筆書状
島原の乱関係資料
藩政時代の國絵図・佐賀城下絵図・佐賀城内絵図
藩政時代の文教資料
幕末における佐賀藩の長崎警備関係資料
幕末における佐賀藩の西洋文化攝取関係資料
パリー万国博覧会（慶応3年）参加関係資料
戊辰の役関係資料
佐賀の乱関係資料
郷土先覚者の書・画

美術工芸資料 約16,000点（陶片を含む）

書 跡

副島蒼海・中林梧竹・西川春洞・大坪格軒の書

絵 画

高橋 由一（蛙）

百武 兼行（イタリア風景・マンドリンをもつ少女・老婦人像）

久米桂一郎（フランス風景・秋景・加茂川の新緑・清水寺）

小代 為重（久米桂一郎肖像・少女・チームス河畔）

岡田三郎助（花野・大陸伯夫人像・バラ）

藤島 武二（裸婦）

青木 繁（ランプ・男の像・神話・夕焼けの海・筑後風景）

高木背水・北島浅一・武藤辰平・山口亮一ほか本県関係の代表的画家の作品

刀剣その他

初代・2代・3代・6代・7代忠吉などの肥前刀匠の作品（刀・短刀・槍先）鑄・鎧・火なわ式銃・大筒
陶磁器

古唐津系（茶碗・皿・鉢・大鉢・水指・徳利・花瓶・大壺）

初期伊万里系（茶碗・皿・徳利）

古伊万里系（VOC商標入皿・鉢・水指・徳利・角瓶・婦人像）

柿右衛門系（深鉢・徳利・壺・陶板）

鍋島藩窯系（皿・大皿・青磁花器）

県内の古窯跡出土の陶磁器片（各種）

民 俗 資 料 約 800点

有明海の漁撈具一式（重要民俗資料）

玄海の捕鯨用具一式

田代製糞関係資料

製蠟関係資料

採炭用具一式

石造物（觀音像・地蔵像・肥前狛犬・五輪塔・板碑・六地蔵・三重塔・名護屋城旗竿石）

I. 昭和46年度購入資料

(I) 自然史関係

① 化石 (石灰藻)

コレニア、シリンドリカ
学名、*Collenia cylindrica*
(GRABAU)

和名、渦巻石灰岩

产地、中國東北部関東州

時代、後期原生代、関東統

大きさ、40×40×3cm

研磨板

② 模型

「有明海干がたと生物」

京都、西尾製作所作製

大きさ、150×150×188cm

模型内容「有明海干がた」と背景パネル

ムツゴロウ、ワラスボ、トビハゼ、シオマネキ、アサリ、アゲマキ、ウミタケ、ミドリシャミセ
ンガイ等の生物を入れている。

③ 標本

④ 県内産蝶類標本 (5箱、120点)

○アゲハチョウ科

ジャコウアゲハ属

ジャコウアゲハ (夏型) ♂♀

オスシアゲハ属

オスシアゲハ (春型) ♀

オスシアゲハ (夏型) ♀

アゲハチョウ属

アゲハチョウ (夏型) ♀♀

キアゲハ (夏型) ♀♀

クロアゲハ (有尾型夏型) ♀♀

ナガサキアゲハ ((夏型) ♀♀

オナガアゲハ (春型) ♀

モンキアゲハ (夏型) ♀♀

カラスアゲハ (夏型) ♀♀

ミヤマカラスアゲハ (夏型) ♀

○シロチョウ科

キチョウ属

キチョウ (夏型) ♀♀

ツマグロキチョウ (秋型) ♀

ツマグロキチョウ (夏型) ♂

モンキチョウ属

モンキチョウ ♂♀

ツマキチョウ属

ツマキチョウ ♂♀

モンシロチョウ属

モンシロチョウ (夏型) ♂♀

スジグロシロチョウ (本州以南亞種)

スジグロシロチョウ (夏型) ♀

スジグロシロチョウ (春型) ♀

ウラナミシロチョウ属

ウラハミシロチョウ (夏型) ♀

ウラハミシロチョウ (秋型) ♀

○タテハチョウ科

ウラギンスジヒョウモン ♂

オオウラギンスジヒョウモン ♂

ウラギンスジヒョウモン ♂

ミドリヒョウモン属

ミドリヒョウモン ♂♀

クモガタヒョウモン♀
 メスグロヒョウモン属
 メスグロヒョウモン♂
 ウラギンヒョウモン属
 ウラギンヒョウモン♂
 オオウラギンヒョウモン♀
 ツマグロヒョウモン属
 ツマグロヒョウモン♂♀
 イチモンジチョウ属
 イチモンジチョウ♂♀
 コミスジ属
 コミスジ♂♀
 サカハチチョウ属
 サカハチチョウ♂
 キタテハ属
 キタテハ 夏型♂、秋型♂
 ルリタテハ属
 ルリタテハ 夏型♂♀
 ヒオドシチョウ属
 ヒオドシチョウ 夏型♀
 アカタテハ属
 アカタテハ 夏型♀
 ヒメアカタテハ 夏型♂
 タテハモドキ属
 アオタテハモドキ 夏型♂
 イシガケチョウ属
 イシガケチョウ 夏型♂
 スミナガシ属
 スミナガシ 夏型♂♀
 コムラサキ属
 コムラサキ (普通型) ♂♀
 ゴマダラチョウ属
 ゴマダラチョウ 夏型♂
 オオムラサキ 夏型♂

○テングチョウ科

 テングチョウ属
 テングチョウ♂

○マダラチョウ科

 アサギマダラ属
 アサギマダラ♂♀

○ジャノメチョウ科

 ウラナミジャノメ属
 ヒメウラナミジャノメ♂♀
 ウラナミジャノメ♂♀

 ジャノメチョウ属
 ジャノメチョウ♂

 クロヒカゲ属
 クロヒカゲ♂

 キマダラヒカゲ属

キマダラヒカゲ♂♂
 コジャノメ属
 ヒメジャノメ♂♀
 コジャノメ (夏型) ♂♀
 コノマチョウ属
 ウスイロコノマチョウ♂
 クロコノマチョウ夏型♂、秋型♂♀
 ○セセリチョウ科
 ダイミョウセセリ属
 ダイミョウセセリ (南日本亞種) ♂♀
 アオバセセリ属
 アオバセセリ♂
 ホソバセセリ属
 ホソバセセリ♂
 キマダラセセリ属
 キマダラセセリ♂
 チャバネセセリ属
 チャバネセセリ♂♂
 オオチャバネセセリ属
 オオチャバネセセリ♂
 イチモンジセセリ属
 イチモンジセセリ♂
 クロセセリ属
 クロセセリ♂♀

○シジミチョウ科

 ムラサキシジミ属
 ムラサキシジミ♂
 ムラサキツバメ♂♀

 コツバメ属
 コツバメ♀

 ゴイシシジミ属
 ゴイシシジミ♂♀

 ベニシジミ属
 ベニシジミ♂♀

 クロシジミ属
 クロシジミ♂♀

 ウラナミシジミ属
 ウラナミシジミ (夏型) ♂♀
 ヤマトシジミ属
 ヤマトシジミ
 ヤマトシジミ (夏型) ♂♀♂♀

 ルリシジミ属
 ルリシジミ♂♀
 サツマシジミ♂♀

 ツバメシジミ属
 ツバメシジミ♂
 タイワンツバメシジミ♂♀

○ウラギンシジミ科

ウラギンシジミ属

ウラギンシジミ 夏型♂♀、秋型♂♀

以上 120点

⑤県内産植物標本

マツ科	6	クスノキ科	6
スギ科	1	ケシ科	2
ヒノキ科	2	アブラナ科	13
ガマ科	2	ベンケイソウ科	6
ミクリ科	1	ユキノシタ科	10
ヒルムシロ科	4	バラ科	29
イバラモ科	3	マメ科	44
アマモ科	1	フロウソウ科	4
オモダカ科	2	カタバミ科	5
トチカガミ科	6	ミカン科	4
タケ科	10	ニガキ科	1
イネ科	68	トウダイグサ科	11
カヤツリグサ科	39	ツゲ科	1
サトイモ科	6	ウルシ科	1
ウキクサ科	2	ニシキギ科	7
ツユクサ科	6	トチノキ科	1
ミズアオイ科	3	クロウメモドキ科	5
イグサ科	8	ブドウ科	6
ユリ科	33	アオイ科	4
ヒガンバナ科	7	マタタビ科	4
ヤマノイモ科	4	ツバキ科	5
アヤメ科	3	オトギリソウ科	4
ショウガ科	2	スマレ科	18
ラン科	40	イイギリ科	2
クルミ科	2	ジンチョウゲ科	5
ブナ科	12	グミ科	6
ニレ科	6	ミソハギ科	3
クワ科	5	ウリノキ科	2
イラクサ科	12	アカバナ科	8
ヤドリギ科	4	ウコギ科	7
ウマノスズクサ科	8	セリ科	17
ヤマモガシ科	1	ミズキ科	5
タデ科	31	ツツジ科	8
アカザ科	2	モチノキ科	4
ヒュ科	1	カツラ科	1
オシロイバナ科	1	ホルトノキ科	2
スペリヒュ科	2	カエデ科	2
ナデシコ科	6	カバノキ科	1
スイレン科	2	ヤブコウジ科	1
マツモ科	1	サクラソウ科	1
キンポウゲ科	4	ザクロソウ科	1
アケビ科	2	アワブキ科	1
モクレン科	4	ハマビシ科	1

アワゴケ科	1	トクサ科	2
ツツラフジ科	1	ハナヤスリ科	8
ヒメハギ科	2	ゼンマイ科	2
キフジ科	1	カニクサ科	1
ヤナギ科	4	ウラジロ科	3
エゴノキ科	1	コケシノブ科	10
モクセイ科	2	イノモトソウ科	34
フジウツギ科	1	ミズワラビ科	1
リンドウ科	7	シノブ科	2
カガイモ科	3	キジノオシダ科	3
ヒルガオ科	4	オシグ科	63
ムラサキ科	3	ミミガシラ科	3
ヤマゴボウ科	1	チャセンシダ科	8
クマツヅラ科	6	スジヒトツバ科	1
シソ科	17	ウラボシ科	10
ナス科	2	シシラン科	2
ゴマノハグサ科	12	デンジソウ科	1
メギ科	2	サンショウモ科	1
ハマウツボ科	1	アカウキクサ科	1
タヌキモ科	3	(追補)	
キツネノマゴ科	3	イチイ科	1
オオバコ科	2	トチカガミ科	1
アカネ科	9	アケビ科	1
スイカズラ科	6	クワ科	3
オミナエシ科	3	ミカン科	2
ウリ科	4	ヒュ科	4
キキョウ科	3	アカザ科	5
キク科	41	ナデシコ科	11
(シダ植物)		スイレン科	2
マツバラン科	1	クスノキ科	2
ヒカゲノカズラ科	7	キンポウゲ科	10
イワヒバ科	5	オシダ科	4
ミズニラ科	1		以上
		138科	1000種
			1000点

(2)歴史関係

品 名	数 量	規 格
夫婦立雛	1	紙本着色 軸物 104.5×30
弥富家、書画	148	紙本捲り
聖観音立像複製	1	像高 109.5cm 台座高24cm
恐童訓	1	紙本着色 卷軸 35× 200
時絵什器類	17	角盤(1)、櫛(1)、桶盤類(2)、馬具(3)
馬具一式	13種	表敷(1)、鞍檻(1)、泥障(1)、鎧(対)、力革 (対)、韁(対)、尻掛(1)、胸掛(1)、面掛(1) 腹帶(1)、鞍(4)、差繩(4)、差繩(絹4)
古賀精里書	3幅対	紙本軸物 131.5×27.5
"	(対聯)	紙本軸物 134.5×13.5
古賀侗庵書	1	絹本軸物 95×33
武富時敏書	1	紙本軸物 137×34

品名	数量	規格
草場佩川墨竹自讃画	1	紙本軸物 119×29
草場船山書 (対聯)	2	紙本軸物 138×12

(3)美術工芸関係

①絵画

品名	数量	作者名	材質寸法
パリの誦子	1	北島浅一	油彩 60号
静物	1	松本弘二	" 8号
緑の庭	1	山口亮一	油彩 100号
白ばら	1	"	" 40号
茄子子	1	三根霞郷	二曲一隻屏風
山の漁村	1	"	水墨、75cm×55cm
風景(1)	1	"	水墨29.5×40.5
風景(2)	1	"	水墨淡彩33×41.5
風景(3)	1	"	" 43.5×58
晩秋の雜木林	1	"	水墨淡彩 42×55
農家八棟松	1	"	水墨 135×69
老冬の森	1	"	" 110×61
円山公園の木蔭	1	"	" 43×57
裸婦	1	"	油彩 33×45
巨樹	1	"	" 45×33
延仁寺の下道	1	"	" 45×45
晚秋の庭	1	"	" 24×33
アイヌの顔	1	"	" 24×33
農夫	1	"	" 32×24
山道(1)	1	"	" 33×24
山道(2)	1	"	" 33×45
腰かける女	1	"	" 45×33
晩秋の奥嵯峨	1	"	" 33×45
山越え	1	"	" 45×33
加茂風景	1	"	" 33×45
水溜り	1	"	" 33×45
嵯峨野の雜木林	1	"	" 33×45
農村	1	"	" 33×45
鶴図	2	伊藤若仲	水墨
山水図屏風	1	高柳快堂	紙本水墨淡彩 137×261

②書跡

副島種臣書	2	副島種臣	
-------	---	------	--

③工芸 (陶磁器)

白滲浮彫金欄手大花瓶 彩繪古墳壁画模様大鉢	1対 1	古伊万里系 日下八光	磁器径45cm 高136cm 径60cm×8cm
--------------------------	---------	---------------	--------------------------------

染付草花文大鉢	1	日下八光 武雄唐津系 大谷窯	陶器52.5cm×18.2cm
胎綠釉櫛目文大鉢	1		

④工芸（刀剣）

肥前忠吉六代・七代 合作刀		肥前国近江 守忠吉（六代） 橋本忠左衛門尉忠廣（七代）	刀身 71.2cm 中心 8 cm 反り 1.5cm
------------------	--	-----------------------------------	----------------------------------

2、昭和46年度寄贈資料

(I)自然史関係

①化 石

○九州大学理学部 松本達郎氏 7点

頭足類アンモナイト（模型）

Texanites	1点
Acanthoceras	1点
Lymaniceras	1点
Ainoceras	1点
Sornayceras	1点
Ainoceraskamuy	1点

頭足類オウムガイ（模型）

Eutrophoceras	1点
---------------	----

○伊万里市、大塚 保氏

10点

鯨の脊椎（大型）	2点
鯨の脊椎（小型）	1点
鯨の肋骨（部分）	4点
大動物骨（種類不明）	2点
テーブル状サンゴ（径25cm）	1点

（昭和45年10月頃、福岡県芥屋大門沖の海底より採取）

○ブラジル在住、大石敏子氏 6点

魚類化石	4点
爬虫類化石（ブラジルの中生代の化石）	1点

南米産化石（セアラ州の産） 1点

○唐津市、野崎定一氏 1点

南極昭和基地の岩石 1点

②標 本

○唐津魚市場寄贈 魚類液浸標本 75点

クジメ	（標本瓶の大きさ）	6×24cm	マゴチ	12×45cm
ミシマオコゼ		"	ヒラサバ	"
ナシフグ		"	ヒラ	"
キス		7.5×30	ヒメダイ	"
キュウセン		"	キンチャクダイ	15×24
モヨ		9×18	クロダイ	"

タナゴの一種	9×21 cm	メイタガレイ	12×30 cm
マフグ	9×36	キンメダイの一種	15×30
ホウボウ	9×36	アヤメカサゴ	"
ムロアジ	"	キツネメバル	"
アカアジ	"	マトウダイ	15×30
ユメカサゴ	12×24	マハタ	"
シタガレイの一種	12×27	アイゴ	"
イラ	12×36	クエ	"
オニオコゼ	"	メジナ	15×36
カワハギ	"	マアジ	"
シマイサキ	"	ウマズラ	"
カサゴ	"	メガネウヲ	"
ノミノクチ	15×45	キダイ	12×30
アカイサキ	"	イツサキ	"
イシダイ	18×24	ウスメバル	15×30
イシガキダイ	21×30	カイワリ	"
ハタの一種	21×45	マダイ	"
ヒメジ	6×24	シキシマハナダイ	"
フグ	"	アカムツ	"
アカカマス	6×36	イトヨリ	"
アゴの一種	9×30	フエフキダイ	15×36
アカシタビラメ	"	トカゲゴチ	"
コノシロ	"	サツオミシマ	"
カゴカキダイ	12×15	イネゴチ	15×60
クロサギ	12×24	コモンサカタザメ	18×45
イゴダカホデリ	"	ウスバハギ	"
ブリモドキ	12×30	イトヒキアジ	21×30
ツルマキ	"	ユウダチタカノハ	21×36
シマフグ	12×45	テンジクイサギ	"
サワラ	12×60	シイラ	21×60
チダイ	12×24	ホンアンコウ	24×36
ウミタナゴ	12×30	イトヒキアジ	21×30

(2)歴史関係

品 名	数 量	規 格	寄 贈 者
草場佩川画屏風	1	六曲一隻 (154.5×63.5) × 6	西 修
須古城瓦片	4 片	径16cm 鑑瓦ほか	広木 幸
旧佐賀連隊鬼瓦	1	30×54	瀬川良造

(3)美術工芸関係

絵 画

品 名	数 量	作 者 名	材 質 尺 法	寄 贈 先	備 考
滞船雷雲	1	松 本 弘 二	油彩 50号	松 本 弘 二	昭25作
春 雪	1	"	油彩 40号	"	昭35作
鳥と子供	1	山 口 亮 一	〃 100号	山 口 三 千 也	
背	1	"	〃 变20号	"	

工芸(陶磁器)

品名	数量	作者名	材質寸法	寄贈先
焰綠釉山岳絵 こね鉢	1	武雄 唐津 弓野 窯	陶器 口径 51×17	栗原慶義

(4)民俗関係

品名	数量	規格	寄贈者
人力足踏綿実操機	1	ホイル径 125 110×50	牟田好雄
弁当重	1	4段組立て 外箱28.5×20.5×15.5	小林元吉
民家模型	1	175×135×65	野口鉄男

3、昭和46年度寄託資料

(1)自然史関係

①化石

九州大学理学部、松本達郎	6点
腹足類、巻貝(傘型)・Helicion カラフト産	1点
斧足類、イノセラムス・Inoceramus カラフト産	1点
斧足類、三角貝(砂岩)・Apotrigonia 夕張市産	1点
頭足類、アンモナイト・Pachyde smoceras 天塩産	1点
頭足類、アンモナイト(模型)・Sharpeiceras 三笠市産	1点
頭足類、アンモナイト(模型)・Nipponites 天塩産	1点
伊万里市、前田 弘 1点	
オウムガイ化石・東松浦郡北波多村稗田、鮎返り産	

(2)歴史関係

品名	数量	規格	氏名
楊心輕穀流静學要諺ほか	5種冊10	A5 写本8 折本2	百崎利一
束郷平八郎書	1	紙本軸物 108×300	富士町長一 吉富郊一
伊東玄朴手澤和蘭字典ほか	3種冊9	筆書き2 版本6 活字本1	医師会会長人 前山彦修
草場船山書画	1	紙本軸物 128×47	西
征東行記ほか	2	和綴 18.5×7	梶尾聞一
繪	2	径3cm、長さ430cm	成松正夫

(3)美術工芸関係

絵画

題名	数量	作者名	材質寸法	寄託者	備考
男秋の日	裸 1 日 1	山口亮一 〃	油彩 P12 〃 P12	山口三千也 〃	美校在学中 明治42 白馬会出品

題名	数量	作者名	材質寸法	寄託者	備考
わらや	1	山口亮一	油彩P12	山口三千也	明治43 文展初入選
婦人像	1	"	" P12	"	末治
婦人像	1	"	" F8	"	明治
落葉	1	"	" P25	"	明治
は阿の	1	"	" P12	"	大正
出大の	1	"	" F8	"	6
山ぼち	1	"	" P12	"	9
ばはち	1	"	" P10	"	9
薔薇	1	"	" F50	"	10
場花	1	"	" F20	"	10
団花	1	"	" F12	"	10
苟末	1	"	" F12	"	12
夫画	1	"	" F10	"	12
桃綠	1	"	" P8	"	12
薔菊	1	"	" P25	"	13
菊婦	1	"	" P8	"	13
自人	1	"	" M40	"	13
自由手	1	"	" M30	"	15
てつば	1	"	" 变15	"	末初
庭塩	1	"	" F10	"	3
麦麦	1	"	" F12	"	3
炉風	1	"	" F15	"	6
冬肥	1	"	" F25	"	8
野後	1	"	" 变10	"	8
お山	1	"	" F10	"	8
阿弥	1	"	" F12	"	8
陀三	1	"	" F10	"	10
壺にさした	1	"	" P15	"	23
ひま	1	"	" F8	"	24
晩後	1	"	" F8	"	"
ばま	1	"	" F50	"	昭30
ばた	1	"	" F30	"	昭30
ばの	1	"	" M40	"	昭32
ばと	1	"	" F20	"	昭32
ばよ	1	"	" F16	"	昭32
堀	1	"	" F10	"	昭33
里佛	1	"	" F10	"	昭33
尊	1	"	" P15	"	昭33
ぶり	1	"	" F8	"	昭33
秋	1	"	" F8	"	昭34
鳥	1	"	" F50	"	昭34
一	1	"	" F30	"	昭35
ら	1	"	" F4	"	昭34
尾	1	"	" F8	"	昭24
牛	1	"	" P20	"	昭24
	1	"	" F12	"	昭25
	1	"	" F8	"	昭25

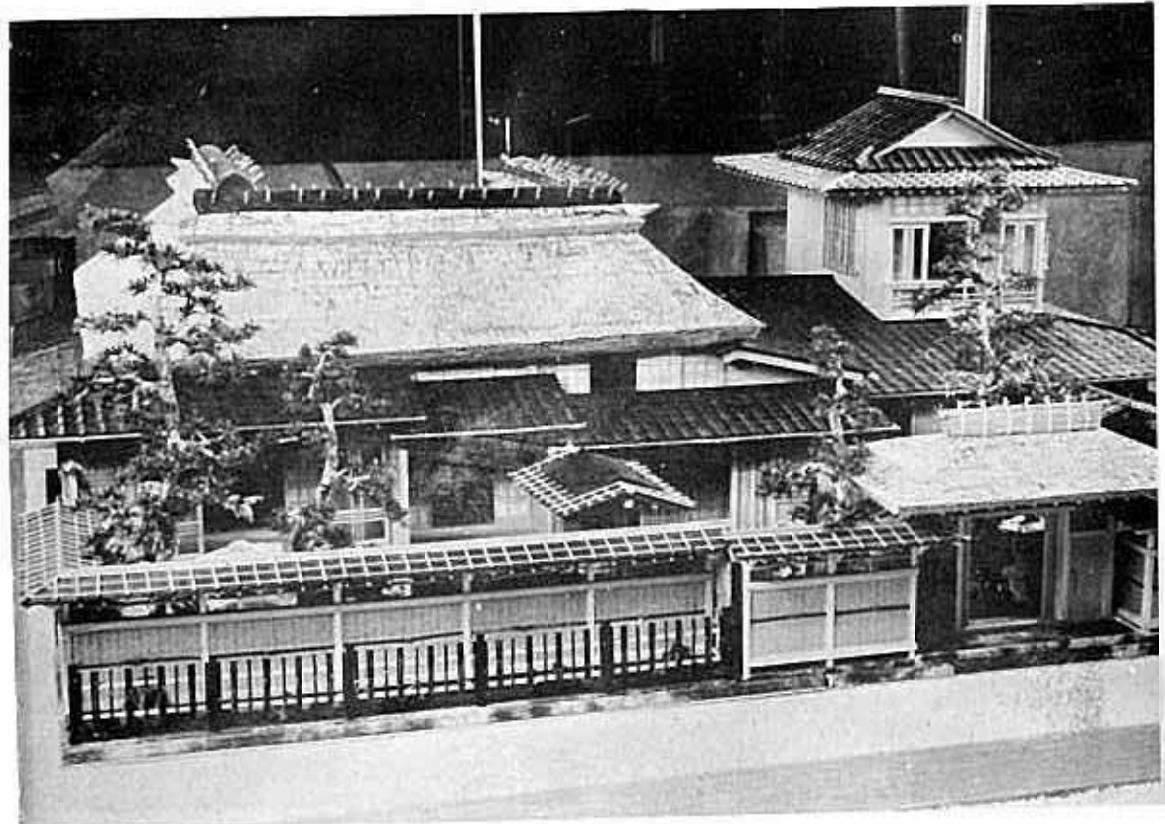
題名	数量	作 者 名	材質寸法	寄 託 者	備 考
ふはしの白河	な	山 口 亮 一	油 彩 F10	山 口 三 千 也	0
ほしの庭	魚 等	0	" P15	0	0
ほしの花	魚 と 笠 菊	0	" F8	0	0
ばたん	ん 蘭	0	" F15	0	昭 26
ばたん	ん 蘭	0	" P12	0	昭 26
ばたん	ん 蘭	0	" F4	0	昭 28
ばたん	ん 蘭	0	" F50	0	昭 30 頃
木の木	頃	0	" F40	0	昭 40
ひの木	わ	0	" F15	0	0 41
ひの木	海 岸	0	" F4	0	0 41
木の木	立	0	" F6	0	0 41
柿種		0	" F4	0	0 41
柿種		0	" F40	0	0 41
菊黄雀	と 白 菊	0	" F8	0	0 42
菊黄雀	と 白 菊	0	" F10	0	昭 42
北島の北島	の マルボーロ	0	" F25	0	0 42
鉢の鉢	さくろ	0	" F12	0	0 42
鉢の鉢	さくろ	0	" F8	0	0 42
鉢の鉢	さくろ	0	" F4	0	0 42
加	喜	0	" F4	0	0 42
裸	鮑 婦	高 橋 由 一 藤 島 武 二	油 彩 バステル		



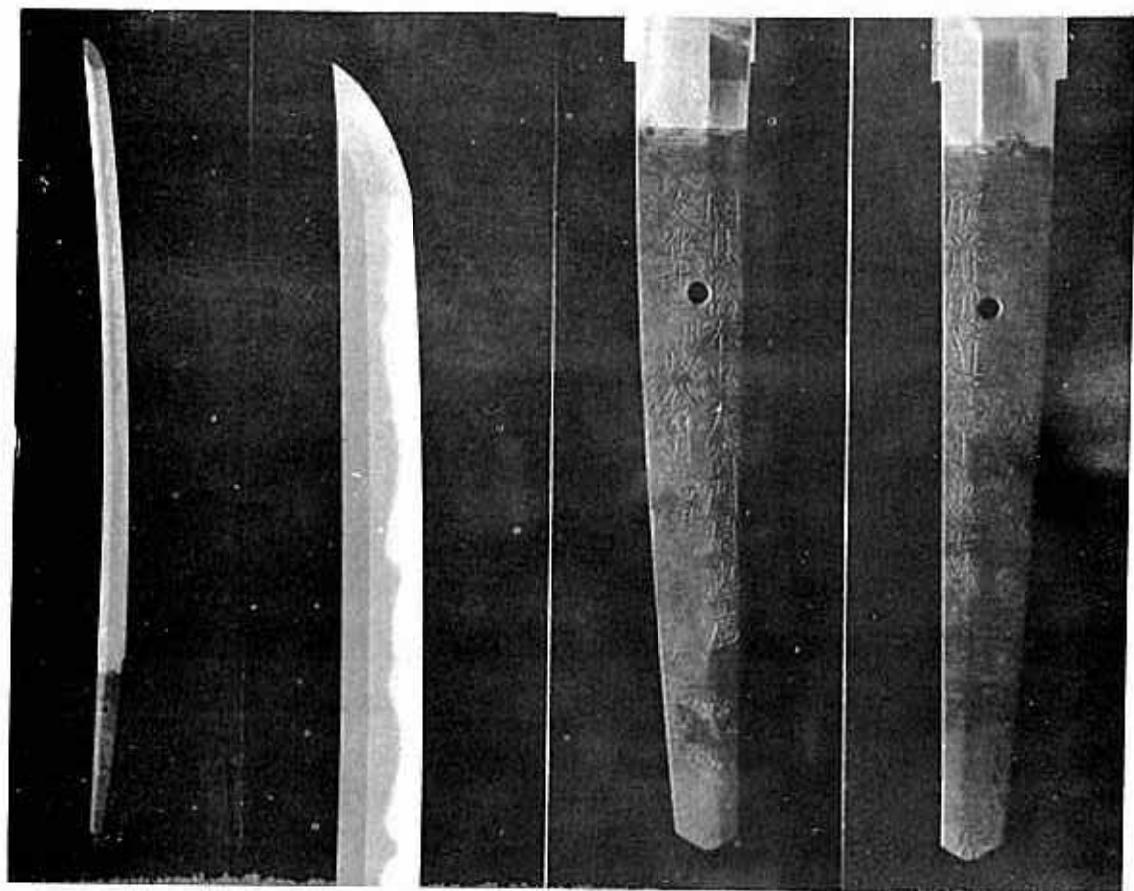
魚類標本



藤 絹 什 器 類



民 家 模 型



肥前忠吉六代・七代合作の刀



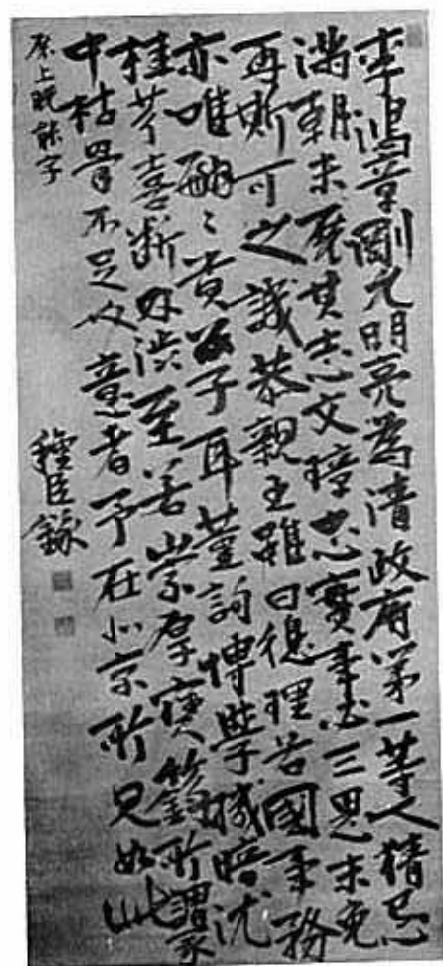
飴緑釉櫛目文大鉢（大谷窯）



飴緑山岳図こね鉢（弓野窯）



鳥と子供 (山口亮一作)



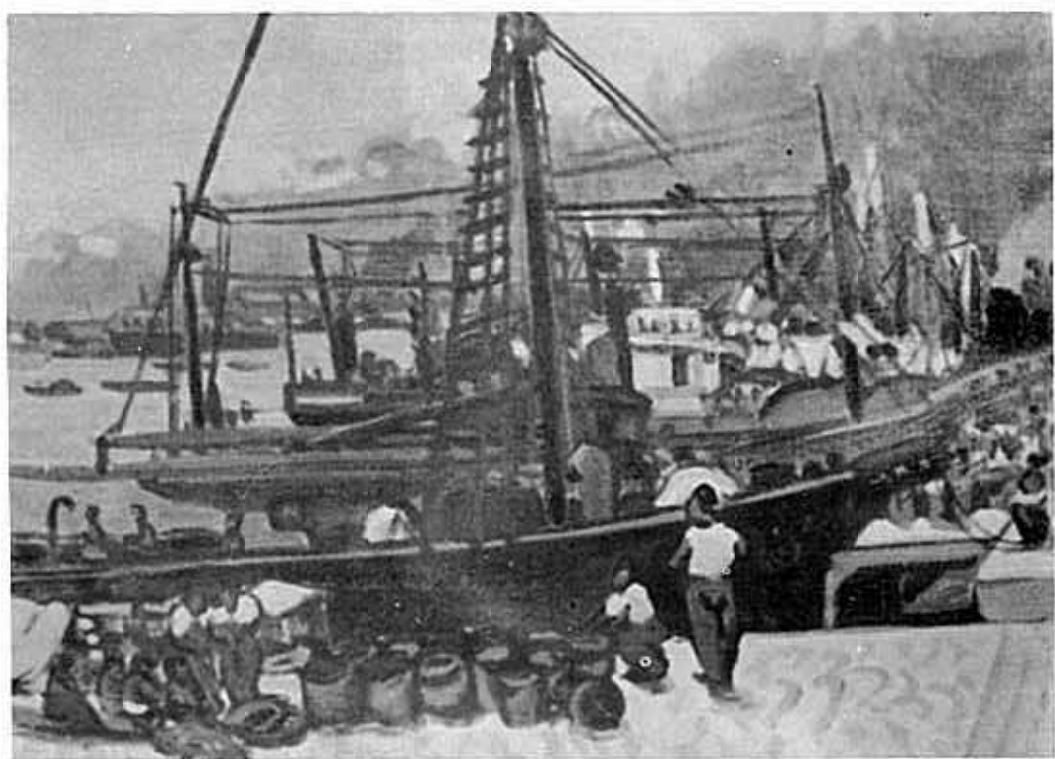
副 極 島 書



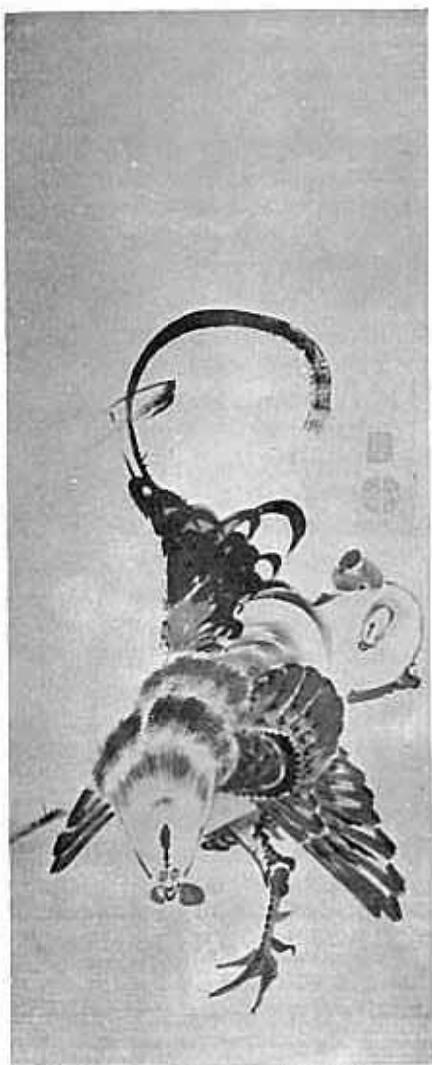
愚 章 訓



白ばら（山口亮一作）



滞船雷雲（松本弘二作）



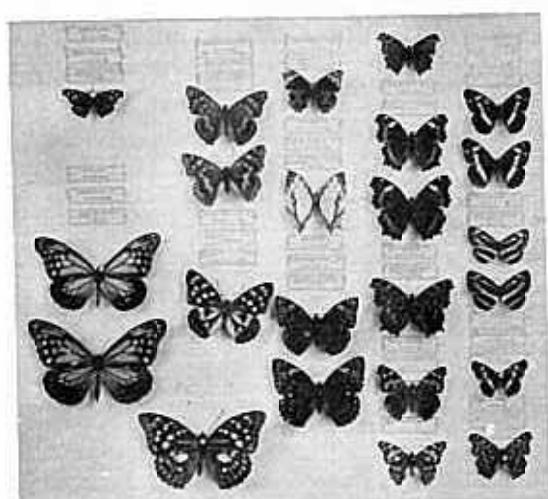
鶏図 2 の 1 (伊藤若仲作)



パリーの踊子 (北島浅一作)



山陰の漁村 (三根霞卿作)



県内産チョウ標本

観覧者の声

日本古美術展について

調査の方法

会期中の一定期間中に、個人観覧者と団体観覧者とに分けて調査を行なった。個人は会場内で自由方式により、団体は引率者に調査票を渡し、後日郵送により回収した。

(注) 各展示会毎に調査を実施したが、その一つを記載した。

調査の期間

- | | |
|-------------|------------------------|
| (1) 個人観覧者調査 | 昭和46年9月18日(日)～25日(土) |
| (2) 団体観覧者調査 | 昭和46年9月26日(日)～10月2日(土) |

調査結果の概要

- (1) 個人観覧者調査

ア、男女別

区分	計	男	女
人 数	111	83	28

イ、年令別

区分	計	19才以下	20～29才	30～39才	40～49才	50～59才	60～69才	70才以上
人 数	111	73	11	4	9	9	4	2

ウ、学校別・職業別

区分	計	小学生	中学生	高校生	大学生	教員	公務員	会社員	主婦	無職
人 数	111	42	24	7	1	16	8	4	4	5

エ、地域別

区分	計	佐賀市内	佐賀県内 (佐賀市を除く)	福岡県	長崎県	その他
人 数	111	48	45	9	9	0

オ、日本古美術展を何によって知ったか

区分	計	新聞	ラジオ	テレビ	ポスター	学校で	その他
人 数	111	37	9	8	26	27	4

カ、主として何を見るために来たか

区分	考古学				美術				工芸					
	計	縄文	弥生	古墳	計	絵画	書跡	彫刻	計	刀剣	金工	陶磁	漆工	染織
人 数	38	11	10	17	39	19	8	12	34	27	1	2	2	2

キ. 感想（満足の度合）

区分	計	満足した	ほぼ満足	不満足
人 数	111	42	41	14

ク. 今後この種の展覧会に望むこと

- 出品数が少ない。
- 模造品でなく実物の展示を。
- 平安時代の仏像などに全く由来の記してないものがあった。記してほしい。
- 書跡には説明書と楷書に直した写しを添えてほしい。
- 作品に関する技法的説明を加え、時代的背景をパネル等で示すこと。
- 左右両側を同時に見るより、蛇行しながら片側ずつ見られるように配慮されたい。
- 時代別、部門毎の展示を。
- このような一級品の展示はとても好感をもつた。たびたびやってほしい。
- 日本の土器・土器、陶器史展、考古学展覧会の開催を望む。
- 美術工芸、彫刻、名画等の展覧会を毎年継続してほしい。
- 専門的でなく、しかも目的をしづらった展覧会を。
- 解説案内人を2~3人おいてほしい。

ケ. 博物館に対する希望

- 野外展ができるように設備をされたい。
- 県内の古い書画軸の優秀品の展示を。
- 博物館の陳列室にどこでも自由に入れるようにしてもらいたい。
- エスカレーター、エアカーの設置を望む。
- ソファをもう少し多く。
- 陳列場内に休憩室の設置を。
- ガラスが汚れている。照明が単調。寒すぎる。
- この建物のデザインは力強い、好感がもてる。
- 県外者には場所がわかりにくいので、目抜通りに懸垂幕や立看板を。
- 他県へのPRが不足。
- 佐賀県人にはもっと見てもらうように指導すること。
- 来館者増加のための色気が不足している。
- 観賃料が高い。また、常設展は無料に。

(2) 団体観覧者調査

ア. 観覧目的、観覧所要時間、事前事後の指導の有無等

区分	分	小学校	中学校	高等学校
団体	数	2	2	2
観覧目的	教科の学習	—	1	—
	社会科 学習	1	—	—
	美術の学習	1	—	—
	社会と美術	—	—	2
	クラブ活動	—	1	—

区分		小学校	中学校	高等学校
観覧所要時間	30～60分間	1	1	2
	1時間30分	—	1	2
	2時間	1	—	—
事前指導	有	2	2	2
	無	—	—	—
事後指導	有	1	2	2
	無	1	—	—
生徒数	男	56	292	—
	女	111	327	932
	計	167	619	932

イ. 児童・生徒の感想

(小は小学校、中は中学校、高は高等学校の略)

- 大いに得るところがあつた。(小)
- いろいろなものがよく集まっている。(小)
- 昔のもの、特に繩文・弥生時代のものがよく保存されている。(小)
- それぞれの品物の見事さに驚いた。(小)
- 生徒は原始～古代に対しての興味が強く、中世・近世の絵画には反応が少ないようだ。(中)
- 男子は刀剣・絵画に、女子は振袖・絵画に関心を示したものが多い。(中)

ウ. 教師としての感想、希望

- この種の展覧会は歴史教育上必見の要がある。(中)
- この種の展覧会は歴史学習の副教材的役割を果す点で必要。(高)
- この種の展覧会は大いに必要である。(小・中)
- このような展覧会をたびたびお願いしたい。(小)
- 小学校4年生には理解が困難だつたようだ。(小)
- 学校の児童生徒の一見をすすめる。(小)
- 佐賀で見られないものが見られるのが嬉しい(小)
- 模造品は展覧の必要がないように思われる。(中)
- 時代名に西暦年を併記されたい。(中)
- 従来の学習内容と一致した点もあり、理解しやすい。(高)
- 説明が少ない。
- 生徒対象に用紙一枚程度の解説を望む。(中)
- 主な作品について監視人または放送により解説してもらえればと思う。(小)
- 高度なものが分るような説明をしてもらいたい。これはテープでもよい。(中)
- 簡単な説明や時代を示す背景があれば興味がもてるのではないか。(中)
- 今回の展覧会は原始～近世まで時代幅があつたが、的をしづらった展覧会(例えは法隆寺展など)も面白くはないか。(中)
- 今後、郷土史、世界史、美術史の展覧会開催を望む。(高)
- 今回の展覧会は、時期が運動会などの学校行事と重なつたため、動員数が少なかつたようだ。(中)
- 市の小学校社会科主任会議や担当学年の先生方に対する宣伝をされてはいかがだろうか。(小)

博物館日誌

- 4月5日 日本建築学会作品賞の受賞候補として日本建築学会から本館を視察
4月6日 東京国立博物館施設課長外1名本館の収蔵庫視察
4月18日 九州芸術工科大学学長小池新二氏来館
4月19日 米国フリーア美術館長ジョンA・ホープ氏来館
4月25日 シルクロード展開場（5月9日まで）
4月27日 オーストリア特命全権大使藤山橋一氏夫妻来館
5月13日 本館の建物について昭和45年度日本建築学会作品賞を受賞したとの連絡をうける。
5月20日 野鳥展開場（中展示室で5月30日まで）
6月1日 茶室「清恵庵」起工式
6月18日 ブラジル大石敏子氏来館、南米産化石寄贈
6月19日 第1回博物館研究講座「佐賀県の古墳時代とその文化」
　　講師 学芸課長 木下之治氏
6月20日 鍋島直泰氏夫妻来館
6月21日 人事異動 資料係長、久保儀市退職
6月23日 河村龍夫氏来館
6月26日 昭和46年度第1回博物館協議会開催
6月29日 「有明海・玄海漁撈習俗展」開場
　　（中展示室で7月15日まで）
7月1日 人事異動 久保儀市、佐賀県立博物館資料調査事務嘱託発令
7月2日 高等学校の社会・美術担当者との普及事業に関する懇談会開催
7月6日 小・中学校の社会・造形担当者との普及事業に関する懇談会開催
7月20日 西有田町「坂の下縄文遺跡展」開場
　　（中展示室で8月31日まで）
7月21日 県議会文教厚生常任委員本館を視察
7月24日 白蛇山岩陰遺跡発掘調査開始（8月3日まで）
8月8日 長崎県立美術博物館友の会会員81名来館
8月11日 九州大学森貞次郎氏来館
8月12日 ブラジル、大石敏子氏来館、鳥の化石寄贈
8月18日 県内離島中学校生徒 300名見学
8月29日 熊本市立博物館友の会会員85名来館
9月1日 人事異動発令
　　副館長 熊谷正門 社会教育課長へ転任
　　学芸課長 木下之治 副館長へ昇任、兼ねて学芸課長
　　事務職員 手塚静雄 資料係長へ昇任
　　出納室用度係長 納富武一 当館総務課長へ転入
9月4日 第2回博物館研究講座「北九州におけるカササギの分布」佐賀大学 久保浩洋氏
9月11日 東京国立博物館「日本古美術展」開場（10月3日まで）
　　特別講演会「日本美術の特色について」
　　東京国立博物館普及課長 関忠夫氏
9月15日 日本古美術展特別映写会
9月19日 佐賀県児童生徒理科作品展開場（9月19日まで）
10月3日 日本古美術展特別映写会
10月7日 「画聖鉄斎名作展」開場（10月22日まで）
10月9日 鉄斎展講演会「祖父鉄斎を語る」
　　講師 富岡益太郎氏
10月9日 第1回移動博物館開場（西有田町で10月13日まで）
10月13日 人事院総裁 佐藤達夫氏来館
10月20日 愛知県議会文教委員14名来館

- 10月21日 東京佐賀県人会員 40名来館
- 10月22日 德川黎明会徳川義宣氏来館
- 10月29日 ソ連陸上選手5名来館
- 10月30日 第21回佐賀県美術展開場（11月7日まで）
- 11月1日 第2回移動博物館開場（呼子町で11月5日まで）
- 11月2日 明治大学杉原莊介教授来館
- 11月5日 長崎県立美術館長外3名来館
- 11月6日 第2回博物館協議会開催
- 11月10日 第3回移動博物館開場（伊万里市で11月14日まで）
佐賀県高等学校美術展開場（大展示室で11月14日まで）
- 11月15日 「明治・大正・昭和名作美術展」開場（11月28日まで）
- 11月20日 明治・大正・昭和名作美術展講演会「近代美術における写実の展開」
講師 佐賀大学教授 石本秀雄氏
- 11月20日 九州学生書道展開場（大展示室で11月25日まで）
- 12月2日 佐賀大学緒方先生退官記念展開場（12月5日まで）
- 12月9日 オックスフォード大学 オリヴァー・R・イムビー氏来館
- 12月27日 東京、山口三千也氏より故山口亮一氏の遺作絵画2点の寄贈と70点の寄託を受ける
- 12月28日 大正大学教授 斎藤忠氏来館
執務納め式、館内消防訓練実施
- 昭和47年
- 1月4日 執務始め式
- 1月14日 衆議院事務局次長藤野重信氏来館
- 1月15日 成人の日（無料公開）
- 1月16日 第1回博物館教室開催
- 1月21日 日本美術院展開場（1月30日まで）
- 1月22日 第3回博物館研究講座「日本美術の本質について」
講師 佐賀大学教授 岸田勉氏
- 2月1日 唐津魚市場より玄海漁類34点寄贈
- 2月5日 佐賀県労働者美術展開場（大・中展示室で2月11日まで）
- 2月5日 第2回博物館教室
- 2月6日 第3回博物館教室
- 2月17日 第3回博物館協議会開催
- 2月19日 第4回博物館研究講座「肥前名護屋城をめぐる諸問題」
講師 佐賀大学名誉教授 三好不二雄氏
- 2月22日 定期監査
- 2月26日 第4回博物館教室
- 2月27日 第5回博物館教室
- 3月1日 外務省顧問武内龍次氏来館
- 3月4日 第6回博物館教室
- 3月5日 第7回博物館教室
- 3月6日 文化庁美術工芸課主任調査官保坂三郎氏・調査官西村強三氏来館
- 3月10日 第1回木器、鉄器、保存加工研修会
- 3月15日 講師 奈良国立文化財研究所、平城宮跡発掘調査部 沢田正昭氏
- 3月18日 第8回博物館教室
- 3月19日 第9回博物館教室
- 3月20日 消防庁次長 山田滋氏来館
- 3月25日 第5回博物館研究講座「佐賀県の石造文化について」
講師 副館長 木下之治氏
- ▼
3月26日 第2回木器・鉄器保存加工研修会
- 3月29日



外務省顧問 武内龍次氏來館



ソ連陸上選手來館

昭和47年度の事業計画

企画展			
展覧会名	会期	会場	備考
独立美術協会展	47年 5月18日～5月28日	2号・3号・大展示室	共催佐賀県教育委員会
野鳥展	6月4日～6月25日	大展示室	常設展併設
有明海・玄海漁撈具展	7月4日～7月25日	大展示室	常設展併設
土生・久蘇遺跡資料展	8月4日～8月25日	大展示室	常設展併設
山口亮一遺作展	9月3日～9月15日	大・中展示室	共催佐賀県教育委員会 常設展併設
理科作品展	9月23日～10月4日	大・中展示室	共催理科教育振興会 常設展併設
蒼海・梧竹展	10月10日～11月7日	1号・2号・3号・中・大展示室	会期中無休
第22回佐賀県美術展	11月18日～11月26日	1号・2号・中・大展示室	共催佐賀県教育委員会 会期中無休
佐賀県高等学校美術展	12月1日～12月6日	大展示室	共催県高等学校美術連盟 常設展併設
学制発布100年教育資料展	48年 1月18日	2号・3号展示室	常設展併設
県立図書館新館開館 10周年記念古絵地図展	48年 1月25日～2月13日	1号・2号・3号・大展示室	共催県立図書館

常設展		
佐賀県の歴史と文化展	47年 4月1日～5月13日 6月4日～9月30日 12月2日～12月27日 48年 1月5日～1月18日 2月20日～3月31日	1号・2号・3号・大展示室 } 1号・2号・3号展示室

佐賀県立博物館年報 第2号

発行年月日 昭和47年6月25日

編集発行 佐賀市城内1丁目15-23
佐賀県立博物館

印 刷 佐 賀 印 刷 社

SAGA PREFECTURAL MUSEUM
15-23 JONAI SAGA CITY JAPAN

佐賀市城内1丁目15-23 〒840

佐賀県立博物館